

EP THE EIKO ALUMNI 83

2015年4月15日発行 ©2015 発行人:栄光学園同窓会・菱沼徹臣 編集人:高橋英治 印刷所:長嶋印刷工房
発行元:栄光学園同窓会 〒247-0071 鎌倉市玉縄4-1-1 ☎0467-44-8875 <http://www.eikoalumni.org>

校長、副校長の交代

学園より金子好光校長、田村宏夫副校長が退任され、新たに望月伸一郎校長(社会・倫理)、林直人副校長(理科)が任に就かれるとの連絡がありました。

63期生が卒業、177名が新会員に！

2015年3月21日、栄光学園第63期生の卒業式が行われ、同窓会に新たに177名が加わりました。

祝賀会では同窓会を代表して菱沼会長より祝辞を述べ、卒業生に「同窓会案内書」と「EACONの操作手順説明ならびにID、パスワード」を配布するとともに記念品の印鑑を贈呈しました。

5月9日(土)、10日(日) 栄光祭開催

5月9日(土)、10日(日)に第68回栄光祭が開催されます。今年の栄光祭のスローガンは「LINK」だそうです。生徒同士、お客様と生徒とのつながりを感じに栄光祭に足を運んでみてください。(→詳細記事、p.2)

〈追悼ミサ〉

栄光祭初日5月9日(土)9時30分より、学園聖堂において、この一年間に亡くなられた教職員・卒業生の追悼ミサを行います。

恩師は、田浦時代から40期代の方々までがお世話になった社会科の金子省治先生。田浦時代に神学生としてご指導くださり、その後、上智大学教授・学長となられたヨゼフ・ピタウ大司教様。長く事務職員として勤められた西田美穂子様。卒業生は1期生から32期生まで21名の平安を参列者で祈りたいと思います。ご遺族の方と退職教職員の方にもご案内しております。ミサ後、聖堂隣のアロイジオ会館ホールにて、追悼した方々を偲び、茶話会も予定しています。多くの卒業生のご参列をお待ちしております。なお、平服でお出かけください。

〈同窓会定期総会〉

5月9日(土)12時より学園アロイジオ会館2Fホールにおいて、2015年度同窓会定期総会を開催いたします。各期委員並びに支部委員の皆様のご出席をお願いいたします。昼食は用意します。

〈OBの部屋 ALUMNI〉

5月9日(土)、10日(日)の両日、開いています。場所は学園聖堂ホール2F。ぜひご利用ください。

主な目次 No. 83

| | |
|----------------|------|
| 学園からのメッセージ | 2 |
| 同窓会会長ご挨拶 | 3 |
| 第6回栄光OBフォーラム案内 | 3-5 |
| 組織活性化WGからのご報告 | 5-7 |
| 第32回JJHAF参加報告 | 7-9 |
| EACON | 9-11 |

| | |
|--------------------------------|-------|
| 学園関連(マイ・ソサエティ、学園通信、OBゼミ) | 11-17 |
| 恩師追悼(金子省治先生、バク先生)他 | 17-20 |
| OB便り(8, 12, 13, 14期OB) | 20-31 |
| 同期会(6, 7, 10, 16, 22, 28, 30期) | 31-38 |
| 支部活動(サッカー、バドミントン、野球部etc) | 38-46 |
| 歴史文学散歩 | 46-54 |

ホームカミングデー

OBの部屋“ALUMNI”

5月9日(土)、10日(日)の両日、別棟2階の聖堂ホールで皆様をお待ちしています。軽食(さぼてんかつサンド予定)、飲み物、お茶菓子などを用意しますので、どうぞご利用ください。もちろん無料です。歩き疲れたら、小腹が空いたら、ちょっとしたのが渴いたら、ぜひお立ち寄りください。

今年は、同窓会の例年の活動や70周年事業のご紹介、会員管理サービス“EACON”の登録や相談などを行います。

OBの部屋から情報発信！

「最近、本を出した」、「演奏会を行う」、「個展を開く」…、こんな情報を同窓生に伝えたい方は、OBの部屋“ALUMNI”をご利用ください。イベント情報やポスター等の掲示、チラシの配布などを承ります(特に若年層会員への情報提供は効果大です)。

なお、お申し込みは同窓会会員に限らせていただきます。また、営利目的・特定の政治活動等はお断りする場合がありますので、ご了承ください。お申し込み、お問い合わせは同窓会事務局まで。

TEL/FAX 0467-44-8875

e-mail: eikohigh@cityfujisawa.ne.jp

学園からのメッセージ

新校舎建築の進捗状況

70周年事業委員会・建築委員長 田村宏夫
(前副校長)

昨年末に建設会社が大成建設に決定いたしました。そこから実施設計に向けて、日本設計と大成建設の調整が始まり、基本設計の見直しと確認を経て、3月6日によりやく建設計画の日程案が示

されました。それによりますと、今年6月より仮設校舎の建築が始まり、8月末に仮設校舎への引っ越し、9月より現校舎の解体に取り掛かることとなります。次いで新校舎建築は本年12月ころより着手し、西棟が2016年7月に完成、本体は2017年3月末竣工とのことです。まだ日程案の段階ですが、およそそのような予定で進むものと思われます。

建築委員会は、毎週、日本設計の担当者や大成建設の担当者、さらには什器備品の調整にあたってもらう業者さんなどと打ち合わせを繰り返しています。その内容を事業委員会や教職員に報告し、必要な意見を伺い、必要な決定を経て業者に返すという作業を続けています。当たり前ですが、建築委員の中に、校舎建築の経験者はおりませんので、慣れぬことに戸惑いつつも、日本設計の栄光卒担当者から助けをもらいつつ、一步一步計画を進めております。

現在(2015年3月末)は、新校舎内の諸室配置の最終決定に向けた作業と、仮設校舎の使い方を決める作業との2つを同時並行で行っています。教職員も日常の教育活動を行う傍らの作業ですので、なかなかきつところもありますが、卒業生の皆さんの応援を背に、なんとか頑張っております。

次回6月配布予定の新校舎通信におきまして、新校舎外観の様子や校舎内部の配置などを、皆様にご報告できるかと思います。また、同窓会の皆様の企画で、新校舎に向けてのイベントや、現校舎とのお別れの機会なども考えられていると伺っております。どうぞ機会を見て、母校をお尋ねいただき、新校舎に向けた活動を応援していただけると幸いです。

本事業に際しましては、5億円を目標に、ご寄付のお願いをさせていただいております。すでに多くの卒業生の皆様にご支援をいただいておりますが、21世紀の栄光学園の教育をより良いものとしていくためには、更なる資金が必要です。同窓会の皆様には、引き続きご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

同窓会会長ご挨拶

「5月総会に向けて」

栄光学園同窓会長 菱沼徹臣(17期)

会員の皆様、日頃より同窓会活動にご協力ご支援をいただき、心より御礼申し上げます。2014年度から15年度への節目に当たり、前年度の振り返りと今年度の所信につき概要を申し述べます。

「血の通う同窓会」をモットーに、その最優先課題としてコミュニケーションの改善に取り組んで参りました。ホームページの刷新と充実、会員専用ネットワークEACONの運用開始、そして広聴初の試みとして全会員対象のアンケート調査など、諸施策を実施しました。また、隔年の名簿印刷や春秋のアラムナイ発行においては、諸経費の大幅ダウンを実現するという成果もありました。

一方、前年に始動した学園70周年記念事業への支援は、諸般の事情による新校舎建築計画の遅れとそれに伴う準備不足のため、募金活動のキックオフにメリハリを欠いた感が否めませんでした。会員の皆様からはご心配の声やご叱責も頂き、新年度の活動に向け、多くの改善のヒントが得られました。そういう状況の中、多くの皆様には、早々に募金の主旨にご賛同いただき多くのご寄付を賜りました。心より感謝するとともに、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

組織活性化ワーキンググループでは、活動サポート部の設置に続き、同窓会の組織や会則の有様を根本的に見直すべきとの会長答申を出しております。これについては総務部を中心に向こう1年を掛けて議論を重ね、組織改編及び会則の改訂を来期総会へ諮るべく計画しています。

2015年度の最重要課題は、本格化する学園創立70周年事業への貢献です。今年、まず仮校舎に移り旧校舎を解体、いよいよ2017年竣工を目指して新校舎の着工となります。耐震強度の不足する現状の建物を、生徒と教職員の生命安全を守る最新の耐震設備に置き換えることが喫緊の課題で

す。そして、我々同窓生にとっての「母校」が、新しい時代に更に力強く羽ばたき、Men for OthersのDNAが末長く継承される環境を整備していくことが何にも増して重要だと思います。栄光でお世話になった全卒業生にとって、数十年に一度の「恩返し」の大きな機会です。記念事業各イベントへの積極的な参加、募金とその声掛け、全体行事に絡めた各期・各支部会合の開催など、それぞれの立場での重大事業への関与、貢献を衷心よりお願い致します。

今年度も同窓会活動へのご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。また、同窓会本部活動にご助力いただける方を常に探しています。皆様からのご連絡お待ちしております。

同窓会活動

栄光学園創立70周年事業 募金委員会協賛
第6回栄光OBフォーラム

新校舎建築シンポジウム

母校栄光学園は、2017年に創立70周年を迎えます。この慶事を迎えるため、栄光学園創立70周年事業委員会が設置され、同事業の一つとして老朽化した校舎を建て替えることになりました。同窓会では、校舎建替えを含む70周年事業に積極的に協力していきますが、その第一弾として、建築家で21期生の隈研吾氏を迎え、新校舎建築などをテーマとした第6回OBフォーラム“新校舎建築シンポジウム”を募金委員会協賛で行います。

新校舎建築工事が始まると、現校舎が取り壊されていきます。このため、現在の校舎の見納めとして、“現校舎お別れ見学会”を併せて行います。

【新校舎建築シンポジウム】

1 日 時

平成27年5月24日(日)14:00～17:00

2 場 所

栄光学園大講堂(鎌倉市玉縄4-1-1)

3 概要

(1) 特別講演 建築家 隈研吾氏(21期)

(2) 新校舎紹介プレゼンテーション

日本設計 崎山茂氏(25期)

岩村雅人氏(34期)ほか

(3) パネルトーク 新校舎建築に向けて

隈研吾氏ほか、学園、同窓会関係者

【現校舎お別れ見学会】

1 日時

平成27年5月24日(日)12:30~14:00

2 概要

現栄光学園校舎等のお別れ見学

(個別の案内等は行わない予定)

シンポジウムの前半はまず、皆さんご存知の世界で活躍されている建築家、隈研吾氏の特別講演から始まります。

隈研吾氏は、1954年生まれの21期生で、隈研吾建築都市設計事務所の主宰、東京大学工学部建築学科の教授を務められ、数え切れない建築作品を世界に送り出しています。また、日本建築学会賞、毎日芸術賞、芸術選奨文部科学大臣賞など、数多くの賞を受賞され、さらに2009年にはフランス芸術文化勲章オフィシエを受けられています。メディア上では、NHKプロフェッショナル・仕事の流儀やカンブリア宮殿などのテレビに出演し、数え切れないほどの雑誌等の紙面を賑わされ、さらに数多くの著書を執筆されています。

隈氏には、新校舎建築の設計監修をしていただいています。本シンポジウムの特別講演では、これまでの数々の建築作品や新校舎建築などについて、興味深いお話が幅広く展開されることでしょう。

特別講演に続いて、具体的な新校舎の設計を行っている日本設計プロジェクトチームの25期崎山茂氏と34期岩村雅人氏他から新校舎の紹介を行います。動画などを交えた、新校舎を容易にイメージ出来るプレゼンテーションです。また、質疑の時間もありますので、どうぞご期待ください。

休憩を挟み後半は、新校舎建築に向けたパネ

ルトークを行います。出演者は、当日のお楽しみ。多種多様な関係者からパネラーを厳選します。こちらでも質疑の時間をたっぷり取り、多くの方からご質問やご意見をいただきたいと思います。

また、このシンポジウムに併せて、現校舎のお別れ見学会を行います。現在の校舎で学んだOBはもちろん、田浦時代のOBの皆さんも、ぜひご来訪ください。新校舎は2階建てハイブリッド構造(一部木造)の予定なので、3階からの富士山を始めとする景色をご覧いただける最後のチャンスかもしれません。

深緑の色増す頃の休日の午後、母校に足を運び、学生時代を思い、未来の栄光を想う、そんなひとときをお楽しみください。同級生を久しぶりに誘って、ご家族連れで、もちろんお一人でも、きっと満足していただけます。皆さま、奮ってご参加ください。ご来場をお待ちしています！

【申込み】

出来るだけ、事前の申込み(登録)をお願いします。申込みは、EACONでのイベント参加、同窓会事務局へのe-mail、FAX、郵送により行ってください。(期、氏名、連絡先、参加人数を明記してください。)

※現校舎お別れ見学会単独での申込みは必要ありません。

申込先

EACONログインページ

<https://eacon.alumnet.jp/>

栄光学園同窓会事務局

事務局e-mailアドレス

admin@eikoalumni.org

事務局FAX 0467-44-8875

事務局TEL 0467-44-8875

(問合せ:月、水、金曜 吉田)

同窓会ホームページ

<http://www.eikoalumni.org/>

【その他】

駐車スペースはありますが、限られた台数しか駐車できませんので、公共交通機関をご利用ください。

シンポジウムは無料ですが、スムーズな入場受付と人数等の事前の把握のため、申込みをお願いします。ご家族等の参加も可能です。

会場収容人員の制限により、申込みを締め切る場合があります。同窓会ホームページなどでお知らせしますので、ご注意ください。その際は、申込みの無い方は入場を制限させていただくことがありますので、ご了承ください。

【OBフォーラム紹介】

同窓会では、「栄光OBゼミ」として、高校1年生を対象に「高1ゼミ」、学園関係者を対象に「放課後OBゼミ」を実施しており、社会で活躍する栄光OBからの学園へのメッセージとして、大変好評です。

平成13年度の11期生を始めに、平成27年度の25期、35期生合同実施で15年目を迎え、毎年24人程度の講師を派遣しており、延べ300人を超える様々な分野で活躍するOBたちが、とても造詣の深いプレゼンテーションを繰り広げてきました。

しかし、授業の一環ということで、水曜日の午後を実施しており、とても貴重で興味深い話を、ごく一部の生徒と学園関係者しか聴くことが出来ませんでした。

そこで、同窓会では、卒業生などを対象とした「栄光OBフォーラム」を企画し、平成22年3月7日の第1回から平成25年11月4日の第5回まで開催し、参加者の皆さんには大変好評をいただいています。どの講演もとてもすばらしく、来場者の満足度の高さは、会場でのアンケート結果にも表れています。過去のOBフォーラムの様子は、第1回をアラムナイ第73号に、以降順次掲載していますので、ぜひご覧ください。

組織活性化ワーキング・グループからのご報告

「第2回答申」と「第一回同窓会会員全数調査」

組織活性化ワーキング・グループ

青木嘉光(10期)

組織活性化ワーキング・グループの活動については、81号で「発足の経緯」、82号で「第1回答申」をテーマにご報告した。本号では今年3月会長に提出した「第2回答申」と、昨年12月から今年1月にかけて実施した「第一回同窓会会員全数調査」の2点を中心に、ご報告させて頂く。

活性化のための第2回答申の骨子

平成26年3月の「第1回答申」では同窓会の活動、事業そのものとそれを推進する、活動サポート、事業両部門の活性化策を提言した。今回の「第2回答申」では活動を後方から支える同窓会各部組織(本部)の活性化策について提言を纏めた。その骨子は以下の通りである。

(1)現状の各部組織の問題点について、

平成25年12月に各部組織から実態の報告を徵求。それを基に議論を重ね、各部組織に共通する問題点を、次の2点に集約した。

- ①常任委員の会務執行への関与が薄いこと
- ②会務執行機関である各部組織の機能と分担がはっきりしていないこと

(2)新しい同窓会組織図と各部組織権限の明確化

これらの問題点を是正し、同窓会の会務執行機関としての各部組織が更に活発にその役割を遂行できるようにするため、3つの対策を纏めた。

①会則第19条3項の改訂

常任委員は審議機関である常任委員会のメンバーであるとともに、各部組織にも属し会務執行の中心でもある。各常任委員にこのことを明確に認識してもらったうえで、その職務を遂行できるようにしておくこと。そのために会則19条の改訂を行うこと。

即ち、第19条(役員の権限)の3「常任委員は会務を審議する。」とあるのを「常任委員は会務を審議し、また常任委員会が決する職務を遂行する。」と替える。

②審議機関、会務執行機関を明確にした組織図の提示

現在の組織図では、審議機関、会務執行機関の区分が不明確であるので、第19条の文言の改訂に合わせて、それを反映した新組織図を作成する。参考に一案を提示。

③細則で各部組織の権限を明示

第19条1項の後段に「なお、各部の権限、各部委員の選任などに関する事項は、常任委員会が決する。」とあるが、常任委員会の決定の記載がない。平成25年12月の各部報告で指摘された、重複や負担の偏りを是正するため、「常任委員会では権限を決し、細則として会則に残しておく」こと。

(3) 今後の課題＝会則の全面改訂について、
「第2回答申」では、「栄光学園同窓会会則」の一部改訂を提言した。今回は当該一部条文の改訂にとどめたが、当ワーキング・グループは、この議論の過程で、「栄光学園同窓会会則」全体を見直す必要があるとの認識で一致した。そこで、今後

の課題としてそれを「答申」の最後に付言した。

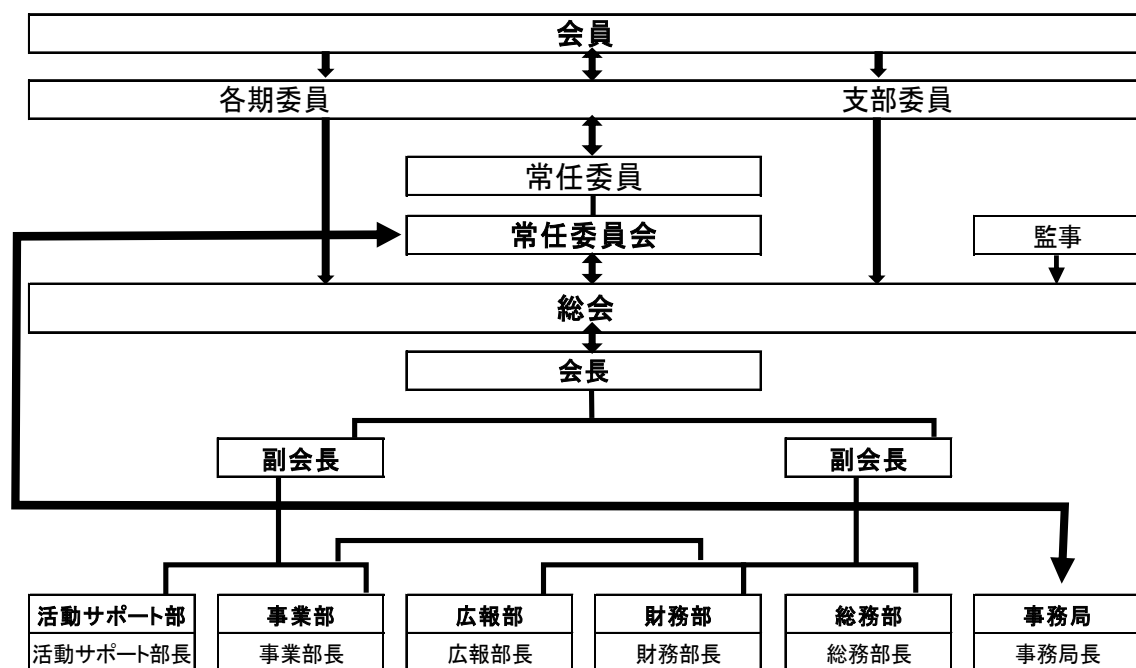
同窓会会員に対する全数調査について

昨年12月から今年1月にかけて同窓会会員全員の皆様へ「栄光出の貴君にとって、『同窓』とか『同窓会』とは何でしょうか。お聞かせください。」と言う第一回全数調査をお願い致した。その調査報告が纏まったので、ご報告致します。

「調査報告」全文は70ページを超えており、詳しくは別冊の「要約版」、又は「EACON」掲載の「調査報告」をご覧くださいようお願い致します。

調査は郵送と「EACON」によるネットと両方で実施。回答状況は、郵送分8,041通に対し577通(回答率 7.2%)、ネット分541通に対し104通(回答率 19.2%)、合計発信数8,582通に対し、681通(合計回答率 7.9%)の回答であった。郵送7.2%に対し、ネット19.2%とネットの回答率の方が高かった。内容については「調査報告」をご覧ください。選肢記入型設問、自由記述型設問ともに、皆様から大変示唆に富むご回答を頂いた。特に自由記述型では、色々な世代の会員から、様々な視点で、同窓会全体に関し多岐にわたる貴重なご意見の表明があった。同窓会の活性化、今後の運営

同窓会組織・機能図(案)



に最大限役立てて参りたい。組織活性化ワーキング・グループ一同、ご協力に深謝申し上げる。

なお、数人から「この種アンケートはWEBにしたら…」と言う主旨のご回答も頂いた。ただ新ホームページへのアクセスに必要なパスワードの変更を済ませた会員が1,200人弱では、全数調査の手段としての役割を果たせないのが現状。この機会に、再度会員の皆様に新ホームページの利用のため、パスワードの変更を行って頂くことを切にお願い致したい。今回の調査の中に、新ホームページ、“EACON”に関し、「ログイン方法が分からず使えていない」と言うようなご回答も散見された。昨年5月に期委員を通じて全員にログインのための、仮パスワードとIDを配布致してあるので、期委員にご確認頂くか、事務局へお問い合わせ頂き、早急に皆様が新ホームページを利用されることを重ねて願います。

「第1回答申」での活性化策実施状況について

活動サポート部と協働で、新支部設立の支援を行ってきた。新支部の候補として挙げた中から、東北支部と野球部OB会支部との準備が進んでいる。東北支部については、関係者のご努力で、会則や連絡窓口などの準備が進み、もう少し暖かい季節になったら準備会の顔合わせと言う段階になっている。また野球部OB会については、OB皆様の熱意で会則原案の作成が終わり、3月に準備会が開

催された。新年度には、二つの新しい支部の誕生が期待されている。

(お詫び) 前号の「組織活性化ワーキング・グループからのご報告(その2)」の記事の付属資料中、「過去2年の活動」(P.5)の4期の欄に「ホームパーティ」とあるのは「ホームページ」の誤りでした。お詫びして訂正させていただきます。

第32回イエズス会校同窓会連絡会議(JJHAF)に参加して

同窓会副会長 山田宏幸(30期)

昨年10月23日に、母校栄光学園を含むカトリック教会イエズス会系の5学校法人(栄光以外に「上智学院」、「六甲学院」、「広島学院」、「泰星学園」)は、平成28年4月に法人合併する方向で基本合意したと発表しました。このことは、すでに多くの方がご承知のことと思います。(ちなみに、同窓会は今のところ合併する予定はありません。)

さて、1年に1度、姉妹校の六甲学院、広島学院、上智福岡中学高等学校との4校で開催される「イエズス会校同窓会連絡会」(JJHAF:The Japan Jesuit Highschool Alumni Federation)が、平成26年11月15日(土)に広島で行われました。今回の幹事は持ち回りで広島学院。通算で32回目の開催となります。4校同窓会が、情報や課題を共有し意見を交換するとともに親交を深め、栄光学

【各期別回答件数】

| | 1期 | 2期 | 3期 | 4期 | 5期 | 6期 | 7期 | 8期 | 9期 | 10期 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 回答者数 | 9 | 13 | 11 | 12 | 17 | 17 | 18 | 14 | 17 | 23 |
| | 11期 | 12期 | 13期 | 14期 | 15期 | 16期 | 17期 | 18期 | 19期 | 20期 |
| 回答者数 | 18 | 16 | 9 | 18 | 13 | 14 | 22 | 10 | 4 | 11 |
| | 21期 | 22期 | 23期 | 24期 | 25期 | 26期 | 27期 | 28期 | 29期 | 30期 |
| 回答者数 | 10 | 10 | 10 | 11 | 10 | 10 | 27 | 21 | 12 | 18 |
| | 31期 | 32期 | 33期 | 34期 | 35期 | 36期 | 37期 | 38期 | 39期 | 40期 |
| 回答者数 | 16 | 8 | 13 | 7 | 3 | 8 | 7 | 3 | 15 | 0 |
| | 41期 | 42期 | 43期 | 44期 | 45期 | 46期 | 47期 | 48期 | 49期 | 50期 |
| 回答者数 | 6 | 6 | 7 | 7 | 10 | 4 | 12 | 5 | 0 | 3 |
| | 51期 | 52期 | 53期 | 54期 | 55期 | 56期 | 57期 | 58期 | 59期 | 60期 |
| 回答者数 | 5 | 6 | 4 | 3 | 10 | 8 | 5 | 4 | 6 | 6 |
| | 61期 | 62期 | 記載無 | 合計 | | | | | | |
| 回答者数 | 11 | 14 | 23 | 681 | | | | | | |

園同窓会からは菱沼会長と山田が出席しました。

連絡会の会場は、広島駅隣接の「ホテルグランヴィア広島」でしたが、せっかく広島まで行くということと、創立60周年事業として講堂及び聖堂を建て替え中ということで、無理なお願いをして連絡会の前に広島学院を訪問させていただくことになりました。12時30分に菱沼会長と現地で合流することとし、私は少し寄り道をして原爆ドームと平和記念公園へ。おそらく35年ぶり？の広島でしたが、戦没者の方々を追悼させていただきました。

広電西広島駅まで路面電車に乗り、駅から学院まではタクシーで行きました。六甲学院も急坂の上でしたが、ご多聞に漏れず広島学院も坂の上にあります。徒歩だと2つ先の「高須」か、3つ先の「古江」という駅から15～20分程度とのことでしたが、きっと道に迷うだろう、日ごろの運動不足から30分の上り坂になるなと思い、文明の利器に頼りました。

現地では、ご多忙の中、広島学院同窓会の栗屋会長と三谷事務局次長が出迎えてくださいました。しかし、運悪く11月14日から15日にかけては学院行事の追悼式で、全校舎閉め切りということで、校舎内には入ることが出来ませんでした。残念でしたが、校内をご案内いただき、校舎外景や体育館、グラウンド、そして現在建設中の講堂・聖堂の状況を見学させていただきました。栄光と同様に、自然に囲まれた素晴らしい環境に施設が展開され、グラウンドも広々。なんと野球場は外野が天然芝で、これにはとても驚きましたが、やはりメンテナンスが大変とのことでした。もう一つ、少しうらやましかったのは、遠方に海が見えること。六甲学院もそうでしたが、やはり海が見えると眺望抜群、開放感がありますね。

野球場の横には、新しい講堂・聖堂を建設していました。創立60周年を2015年に迎えるとのことで、事業予定費は約13億円で、寄付金の募金目標額を2億円としています。(詳細は広島学院ホームページをご参照ください。)

広島学院を30分程度見学させていただいた後、栗屋会長と三谷事務局次長とともに広島駅の会場に向かいました。ちなみにここでご用意いただいた

タクシー会社の「つばめ交通」は、広島学院同窓会副会長の山内氏が役員をされているとのこと。また、ホテルも広島学院OB関連とのことでした。広島での学院の存在感の大きさを感じました。

会議は14時から2時間程度行われ、幹事の広島学院の司会で進行しました。会議の概要は以下の通りです。

《会議の概要》

1 日時:会議 2014年11月15日(土)14:00～16:00(懇親会16:30～18:00頃)

2 出席者

広島学院:会長、副会長4名(うち1名関東支部長)、事務局長、事務局次長、事務局員(懇親会のみ参加、広島学院三好校長先生)

(2)六甲学院:会長、副会長2名、事業委員長

(3)上智福岡:副会長

(4)栄光学園:会長、副会長

3 会議の概要、議事等

(1)自己紹介後、各校同窓会の近況をそれぞれ紹介した後、議事に入った。

(2)各議事について、意見交換、議論を行った。議事は以下の通り。

ア 同窓会名簿について

イ 東ティモール支援について

ウ イエズ会校同窓会世界連盟について

エ その他

各校からの近況として、広島学院からは、①ホームページ更新:閲覧パスワード制限を減らし、フェイスブックと連動させ、情報更新も容易にした。②第1回広島地区会員交流会開催:本部地区の会員交流活性化のため年1回大学生会員の歓迎を兼ねた会の開催。③定期的な活動:広報、会員交流、支部活動、ゴルフコンペ、JJHAFサッカー交流試合など。④母校創立60周年記念事業:募金活動や文化祭への参加など。が報告されました。

六甲学院からは、同窓会誌「伯友」により各支部会の活動が紹介され、特に「東京伯友会サロン」

OPENについて詳細の説明がありました。六甲学院OBが普段は事務所としている場所を提供し、同期会や懇親会の会場として提供。毎月第3木曜日に「三木会」という定例会を開催しているそうです。また、名簿については、副会長、各委員長、常任幹事の各3名ずつ計9名で検討委員会を立ち上げ、検討しているとのことでした。

上智福岡からは、男女共学3年目となるが、上智大学に15人が推薦入学したことが紹介されました。また、校舎を改築にあたって寄付では相当苦戦していること、役員の若返りを図りたいことなどの課題が説明されました。

個別議題として、昨年に引き続き名簿について意見を交わしました。いずれの同窓会も、名簿発行の意義、財政面、紙面か電子媒体か、などのさまざまな課題を抱えていることは概ね共通しているようです。特徴的な意見として、①広島学院は、基本的に現状の紙面による名簿発行を堅持する。②六甲学院は、平成27年の4～5月に向けて、今後の名簿のあり方について検討を進める。③上智福岡は、名簿発行を含め、全体的に検討中である。などが発言されました。本同窓会としても、引き続きの懸案事項であることは明らかですので、各校同窓会の動向を参考にして、検討していく必要があります。

東ティモール支援については、各校で対応が異なり、寄付や学校への募金、協力など様々な形で工夫していることが報告され、引き続き各校で学校と同窓会が協力するなどして50万円ずつ支援することが確認されました。

イエズス会校同窓会世界連盟については、前々回(第30回)のJJHAFで、派遣を見送った経緯があることを踏まえ、まずは広島学院からコンタクトをとり、会費のことなどを把握することになりました。

まだまだ議論が尽きない中、開会後2時間があつという間に経過し、次回幹事が上智福岡中学高等学校同窓会(泰星会)であることを確認して、とりあえず会議を終了しました。会議終了後、同会場で懇親会が行われ、さらに各校の親交を深める

とともに、議事録には掲載し難い「情報の共有」を行い、大いに盛り上がりました。懇親会から広島学院の三好校長先生も合流され、ご挨拶をいただきました。三好先生は、六甲学院の32期生(栄光の23期相当)とのことでした。各校は所在地域が異なり、参加者は仕事も年代も違うのですが、そこはやはりイエズス会校での教育を受けた者同士、何の隔たりもなく会話は弾み、大いに盛り上がり、時を忘れるほど楽しく有意義な会でした。次回、福岡での再会を参加者全員で確認し、午後6時過ぎに散会となりました。

EACONを使う(2)

広報部

今回はEACONを使ったイベントの通知とその出欠回答の仕方について説明します。

同窓生の皆さんには学年ごとにIDと仮パスワードを配っていただいておりますが、その際に「EACON最初の一步」も併せてご案内いただいていると思います。お手元になれば同窓会ホームページからでもご覧いただけますので、事前にお読みください。アラムナイではすでにEACONへのログインが出来る方、ご自身のプロフィール編集でメールアドレスを登録されている方、かつ同期グループなど何らかのEACONグループに参加されているという前提で話を進めさせていただきます。



1. イベントの書き込み

同期グループでクラス会を開催する場合を例にとって説明します。これは幹事が代表

してイベントの通知をEACON上で作成する手順です。

まずEACONにログインし、左側メニュー欄から「イベント」をクリックします。

イベントのページに切り替わり、現在予定されている関連するイベントが表示されます。この画面の右上に「イベントを新規作成」というボタンがあるので、ここをクリックして作成画面に進みます。

イベント作成画面ではイベント名、日時、主催者名、イベント詳細情報、場所などを記入しますが、大事なのはどのグループを対象に行うイベントであるかを選択することです。これを間違えると本来集まりたいグループメンバーが招待されなくなってしまうのでご注意ください。

さらにイベント作成画面では、以下の各項についてEACON上の扱いを設定します。

1. 公開設定(通常は招待者のみに表示)
2. 参加権限設定(通常は招待者のみ参加)
3. 表示設定(参加者リスト、コメントリストの表示についてチェックマークを付けることを推奨)
4. メール設定(イベントオーナーへの通知、リマインダーメールの可否)
5. 会費設定:会費の管理機能がありますが、まだ使用例を知りません。機会があったら使ってみて報告します。

これらの設定を終えたら保存ボタンをクリックしてイベントの設定が完了します。

2. イベントの案内

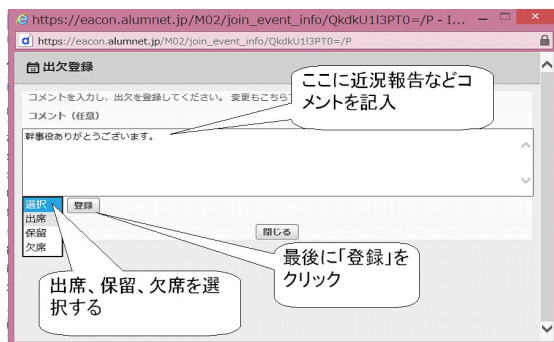
イベントオーナー(幹事)がイベントの設定を保存すると、EACONシステムから選択されたグループのメンバーを招待し、メッセージを発信します。

EACONにメールアドレスを登録してあれば、そのアドレス宛てにも案内が届きます。

案内メールに記載のURLをクリックするとInvitation Cardが開き、そこからイベント詳細を開くことができます。案内メールとは別に、ログイン後、メニューのイベントからMyイベントと辿っても同じイベントページにアクセスできます。

3. 出欠回答とコメント

イベント詳細情報を確認できたら出欠の回答をします。出席か欠席を選択し、任意にコメント欄を使って近況報告を行うことができます。このコメントはコメントリストのタブにも表示されます。参加者リストのタブは現在の参加予定者を確認する際に便利です。



4. まとめ

筆者は実際に自身の学年の同窓会開催時にEACONのイベント機能を使ってみました。残念ながら同期生全員がEACONに登録している訳では無く、別途メールや郵送での開催案内も必要になったため、折角のEACONの機能も効果が半減してしまい、むしろ出欠集計をあれこれ足し合わせなくてはならないので幹事には負担になってしまいました。全員がEACONの期グループへの参加を行いメールアドレスが登録されていることが理想です。

そうした問題があるとは言え、出欠通知を行った際に近況報告を記入するとグループメンバー全員でそれを閲覧できることは良かった点でした。幹事が受領した近況報告を全員に紹介しなくても、EACONにログインすれば最新の出欠回答までの近況報告や出欠予定を見に行くことができるのは便利です。

〇〇期クラス会

HOME > イベントリスト > 〇〇期クラス会

イベント詳細情報

参加者リスト

コメントリスト

出欠変更

1件 ~ 1件 (計 1件)



幹事役ありがとうございます

ここを選ぶと招待者の回答したコメントがすべて閲覧できます

クラス会やゴルフコンペ、支部の集まりなどこれまでメールで連絡を取り合っていた出欠確認もメンバーがEACONに登録していれば幹事の負担も軽くなりますので、ぜひメンバーの登録の促進を行うとともにイベント管理を行ってみてください。

栄光メサイア・ソサイエティ

飯野習一(19期)

栄光メサイア・ソサイエティ(EMS)は卒業生、生徒・卒業生の保護者などがメンバーの合唱団を中心とする団体です。代表は29期の森田真さんと、元栄光学園音楽科の吉田先生の指導の元、毎年12月に行われるヘンデル作曲「メサイア」のコンサートに加えて、2010年にはブラームス作曲「ドイツ・レクイエム」、2012年にはブルックナー作曲「ミサ曲第3番」の演奏会を開催してきました。

2014年に行われた演奏会は以下の通りです。

8月30日(土)、鎌倉芸術館大ホールにて
チャイコフスキー作曲「弦楽セレナード」作品48
モーツァルト作曲「レクイエム」 KV 626

ソプラノ 藤崎美苗 アルト 田村由貴絵

テノール 水越 啓 バリトン 杉山範雄

指揮 吉田秀文

栄光メサイア・ソサイエティ合唱団/アンサンブル

12月21日(日)、栄光学園聖堂にて
ヘンデル作曲「メサイア」全曲

ソプラノ 山崎法子 アルト 古賀裕子

テノール 豊原 奏 バリトン 菅井寛太

指揮 吉田秀文

栄光メサイア・ソサイエティ合唱団/アンサンブル

2015年は12月13日(日)に学園聖堂でメサイアの演奏会を行います。またバッハ作曲「マタイ受難曲」の練習にも取り組んでおり、2017年ごろの演奏会開催を目指しています。合唱への参加、演奏会の情報などは飯野(shooooops@gmail.com)にお問い合わせください。

飯野習一(19期)

広報部 内山正樹(9期)

1977年から78年(正確に言えないところが問題ですね…)に学園資料室が発足しました。担当は金子省治先生、谷口先生、生熊先生でした。私は生熊先生が広島学院に移られた81年にメンバーになりました。

最初の仕事は資料の収集で、「何でもいいから資料になりそうなものをください」という呼びかけが職員会議でされたのを記憶しています。数多くの文書や写真など、貴重な資料が集められました。続いて展示が企画されました。学園創立や大船移転の様子を紹介するもの、キリスト教やイエズス会に関するもの、学校行事の年間記録などです。二階中棟につくられた学園資料室は手前が展示室、奥が資料置き場でした。集まった資料について分からないことを確認し、「昔話」をうかがうためにゲストをお招きして座談会も行いました。

これらの延長上に創立40周年の記念誌発行、記念展示、記念式典があります。創立50周年の記念誌「より高く」は独立した編集委員会で作られましたが、学園資料室の資料が使われことは言うまでもありません。

現在、70周年行事の一環としてアーカイブ作りの作業をしています。金子先生、梅津先生、碓井先生に多くの時間作業していただき、膨大な分書類を一通り分類・整理することができました。専門業者に入ってもらい、資料の保存、収納にも取りかかっています。それでも「学園アーカイブ」と呼ぶには資料に欠けが多くあり、写真の整理は思うように進まないなど、課題は少なくありません。次号のアラムナイでもっとよい報告ができるよう、頑張りたいと思います。学校内の担当は黒木先生(24期)と私、飯野です。

1. 創立67周年記念式典

創立67周年記念式典で、21期の隈研吾氏が『栄光の力』というタイトルで記念講演をされました。「栄光の卒業生は力があって面白いぞっていう話をしたい」とのイントロから、建築を通して自然と共生する人間のあり方、そして、新校舎のイメージにまで話は及びました。中1(68期)のレポートの中から村松颯太君と林謙吾君の感想文を紹介しします。

村松颯太(A組)

「栄光生は野性人である」。最初、その言葉の意味が分かりませんでした。しかし、講演を聞いているうちにだんだんと理解できるようになっていきました。「自然の中で生活する。それが栄光生の力強さ、賢さを生み出す。また、カトリック校だから身につけられる国際性。これらは栄光でしかできない」。普段、何も気にせず栄光で生活してきた僕は、こんなにも身近な栄光の特徴も知ることができない「人間の愚かさ」に驚きました。しかし、このことは後の講演で身にしみるほど分かりました。

講演は「自然と人間」という話題になっていきました。「大災害が世界を変える。それは文明の転換が起こるからだ」。これは僕にとって大きな発見でした。今まで僕は、世界を変えるのは新しい技術の開発だけだ、と思っていました。しかし、自然の力の強さは講演を聞けば聞くほどよく分かりました。

講演を聞いて自然について次のことが分かりました。第一に、自然は人の力では到底敵わない力を持っていて、自然の力をよく知る昔の人々の教訓を無視すると大変なことが起きるということ。第二に、自然は人間に安らぎを与え、人を幾度となく助けてきたということ。第三に、人は自然と共生し、調和していかなければならないということ。

これから、僕は自然に対して謙虚に、また、自然を大切にしていこうと思います。そして、現代社

会では時代に合ったものづくりし、そのためには自然に近づいていかなければなりません。それには栄光がもってこいだ、ということも、講演が教えてくれました。

隈さんの、建築を通して自然と人間の間を説き、最初と最後を関連させて話すような、巧みな話術を自分も身につけたいです。

林 謙吾 (D組)

僕は創立記念講演を終え、今まで考えたこともなかった仕事、ぼくの夢へと変わりました。それは隈研吾さんのような「建築家」です。僕は今まで将来の夢がなかなか決まらず、将来の夢を聞かれたときは「まだ決まっています」と答えていました。そんな僕に夢を与えてくれた隈研吾さんの講演で、中でも強く印象を受けたことが2つあります。

まず一つ目は、隈研吾さんが造る建物の形や色合いについてです。僕は前から家の形に興味をもっており、広告に出ている家をよくながめていました。そのため、隈研吾さんが造る建物の写真を見たとき、目を輝かせました。建物の形がとても愉快で、美しかったからです。その写真を見て間もなく僕の夢は「建築家」へと変わりました。

二つ目は、数年後にできる予定の栄光の新校舎が、まるで美術館のように美しかったことです。完成予定図のような美しい校舎になれば、栄光に入りたいと思う人が増え、栄光学園がより発展していくと思うので、とても楽しみです。今回の創立記念講演が、今の講堂の建て替え前、最後のイベントだったので、充実した内容で終えることができ嬉しく思います。

2. 第64回体育祭

9月に行われる体育祭は5月に行われる栄光祭と並んで生徒中心に実行委員会を組織する2大イベントとなっています。企画部門長をやった高2(64期)の井小路馨君のレポートを紹介します。

企画部門長 井小路馨

企画部門長として64回体育祭にかかわること

ができともうれしく思っています。当日、うまくいかないところも数多くあり、悔やんだこともいくつかありましたが、無事体育祭を終えられたのはたくさんの支えがあったからだと思います。特に、企画部門員のみんなには感謝の気持ちでいっぱいです。

幹部として体育祭に向けた用意を行っていたのですが、私の考えが足りなかったり、確認を怠ったりしたためにうまく動けなかったときも、部門員が嫌な顔をせずに手伝ってくれたり、自主的に動いてくれたりと支えてもらいました。そのたびに部門員に悪いな、と思いながら深く感謝していました。

今回、体育祭を通して、1つの体育祭に参加しているだけでは見えない、多くの人が陰で体育祭を支えているということをもっと感じました。また、実行委員会にはいなければ話すことがなかっただろう、後輩や同級生とも仲良くなれて、楽しい時間を過ごすことができました。

これで栄光祭、体育祭と参加してきた実行委員会は最後になりました。中心学年である高2の文化祭、体育祭がおわってしまったことはさびしく感じますが、栄光で毎年行われている行事に内側からかかわることができ、うれしく思います。来年は競技に参加し、体育祭の競技を楽しみながら、実行委員会の助けになれば、と思います。

今回経験したことを活かして、今後、部活動などに集中していきたいと思っています。

本当にたくさんの方に支えてもらいました。ありがとうございました。

3. 中学3年生東京遠足

中学3年生は3学期に2泊3日の学年旅行を行っていますが、この旅行の準備のため2学期に東京遠足が実施されました。中3(66期)の宮尾佑典君の序文と結語を紹介します。

宮尾佑典 66期

(序文)一学期の、ホームルームを使ったクラス企画。二学期の、丸一日を使った東京遠足。これら中学三年生が行う行事は、三学期に予定されて

いる関西旅行において必要となる企画力、及び行動力を養うためのものである。今回の東京遠足の企画は、まず班を決め、それからそれぞれの班ごとに企画を練り、担任に提出、という流れだったのだが、提出した企画が担任に却下されることも多々あったようだ。そんなこんなで完成した企画は、浅草、スカイツリー、秋葉原というおのぼりさん？らしいものもあり、美術館に皇居というオトナっぽい企画もあり、なかなかバラエティにあふれるものとなった。これは、そんな彼らの行動記録の一部である。

（結語）今回の遠足は関西旅行に課題を残すものとなった。「東京駅、丸の内側、南口、地下一階の団体待合所」という場所に集合、解散だったのだが、慣れない複雑怪奇の場所で迷い、時間に遅れた人もいた。また、その他、各自で反省すべき点が見られたようだった。このことは関西旅行に生かし、中学三年間の集大成となるイベントにしていきたい。

4. 駅伝県大会出場

11月に高校及び中学の駅伝県大会に陸上競技部が参加しました。高校生は丹沢湖周回の42.195kmで行われ、参加69チーム中39位でした。優勝したのは藤沢翔陵高校で、京都で行われる全国高校駅伝の県代表となりました。中学生は鎌倉市大会で2位に入り、八景島で行われた県大会への出場権を得ました。県大会に出場した中3(66期)の岩田洋人君のレポートを紹介します。

岩田洋人 66期

去年の10月20日、僕ら栄光学園中長距離組は雨の中辛酸を舐めた。神奈川県駅伝大会への出場権を得られなかったのだ。鎌倉市駅伝大会において2位以内という基準をクリアできず、悔しい思いと共に、次年のリベンジを心に刻んだ。

そこで先生から「中学中長距離組を中学駅伝組へ名前を変え、県駅伝を最終目標として一年間活動しないか」との提案をいただき、チームで話し合

った結果、栄光駅伝チームは再出発した。

もちろん、それからの練習はとてもハードで、時には本気で音を上げかかったこともあった。それでも、「県大会に出るんだ！」の一心で食いがつた。あっという間に1年は過ぎ、今年の市駅伝を迎える。試合運びは良好で、結果は市2位となり県大会の切符を手に入れることができた。しかし実のところ僕は走っている間にミスの一つ犯しており、それが無ければ1位通過できたかもしれない。そのことに触れないでくれるチームメイトに感謝しつつ、来る次の大会目指して練習を積んだ。高校の先輩方にもサポートしていただき、海の公園に試走に行ったりもした。この短い期間でチーム全員の能力が上がっているのが感じられ、自分の心の中でこれなら県でもいい順位につけるのでは？という慢心も少し生まれていたようにも思う。

そして遂にその日がやってきた。出場校は強豪揃いだが、僕自身はあまり緊張していなかった。そのままスタート。自分の担当は市大会6区→県大会4区と配置換えされていたので、自然順位争いに参加することとなった。張り切って次々他校を追い抜き、気が付いた時はラスト1200m地点を走っていた。偶然前に人が見えなかった十数秒があったので、気が緩んだのだ。急に脚の疲労を自覚し、完走できるか心細くなった。だが、これは駅伝であり、このタスキを仲野君に渡さなければと自らに鞭を打って完走した。

結果的には区間賞には6秒届かずということとなり、その僅差を詰めるにはどうすればよかったのか自問自答した。

そこで僕が出した結論がこうだ。もし僕だけで走っていたとすれば、途中で投げ出していたかもしれない。メンバー皆に対する責任があるからこそ発揮できる力があり、それを発揮させてくれるハイレベルな闘いが県にはある。そう気づかせてくれるチャンスくれたメンバー全員と先生方に感謝したい。

2014/15年度のOBゼミ

飯野習一(19期)

2014年度OBゼミは前半15回を24期、後半11回を34期に担当していただきました。メンバーの募集・調整は24期川瀬弘一さんと34期丸山浩之さんをお願いしました。現在2015年度前半の準備を25期仲谷栄一郎さんをお願いして進めています。教員の担当は来年度から41期卒の堀真人先生になります。

2014年度のOBゼミタイトルと講師は以下の通りでした。

第1回 2014年4月23日 エンドユーザーコンピューティング環境の変遷

24期 斎藤 泰 氏(CSIジャパン株式会社)

第2回 2014年4月30日 経理の話

24期 生田 論 氏(キヤノン技術情報サービス 管理部長)

第3回 2014年5月7日 電池開発のお話

24期 古川 淳 氏(古河電池株式会社 経営戦略企画室 UB事業化部 部長)

第4回 2014年5月14日 職業としてのソフトウェア開発

24期 小森 斉 氏(富士通株式会社 計画本部 開発企画統括部(標準化グループ)エキスパート)

第5回 2014年5月21日 日本の国際競争力強化における課題と挑戦 ～製造業の観点から～

24期 藤田英樹氏(パナソニック株式会社 理事 渉外本部 グループマネジャー)

第6回 2014年6月4日 入門 日本の資本市場 ～特にM&Aアドバイザーの視点から～

24期 高田 明 氏(野村インベスター・リレーションズ株式会社 取締役)

第7回 2014年6月11日 銀行員の仕事、銀行員としての楽しさ・面白さ ～私の職業観・キャリアを通して～

24期 野口達司氏(山万(株)取締役総務部長・ユーカリ総務部長 兼 ワイ・エム・メンテナンス(株)常務取締役総務部長)

第8回 2014年6月18日 ニュースで何を伝えてきたのか ～日本と世界の片隅を歩き見て～

24期 太田 肇 氏(NHK グローバルメディアサービス ニュース制作部 CP)

第9回 2014年6月25日 ロボットと未来 ～100年後の未来に向けて～

24期 村川賀彦氏(株式会社富士通研究所)

第10回 2014年9月17日 医療・年金の将来と日本の財政(日本の課題 － 霞が関の視点)

24期 池田篤彦氏(財務省、原子力損害賠償・廃炉等支援機構出向(理事))

第11回 2014年9月24日 病院整形外科医の仕事となり方

24期 大川 淳 氏(東京医科歯科大学学部附属病院副院長)

第12回 2014年10月8日 トイレ掃除のできるビジネスエグゼクティブをめざして － 栄光学園で学んだこと －

24期 谷口義武氏(株式会社セブンイレブン・ジャパン)

第13回 2014年10月15日 世界を覗いてみよう ～二度の海外勤務経験から感じるままに

24期 豆生田信一氏(日本ビル・メンテナンス(株) 代表取締役社長)

第14回 2014年10月29日 弁護士の仕事

24期 仁平信哉氏(弁護士)

第15回 2014年11月5日 これからの母子保健について

34期 丸山浩之氏(丸山産婦人科 理事長 院長)

第16回 2014年11月12日 これからの医学・医療・医業について

24期 明石勝也氏(聖マリアンナ医科大学理事長)

第17回 2014年11月19日 震災原発事故後の心理社会的ケア

34期 辻内琢也氏(早稲田大学人間科学学術院准教授「災害復興医療人類学研究所」所長)

第18回 2014年11月26日 インターネットの変遷

34期 野間恒毅氏(ワンダーツー株式会社 代表取締役)

第19回 2014年12月3日 福島事故の経験と教訓

34期 長澤和幸氏(東京電力株式会社原子力設備管理部 安全施設建設センター所長)

第20回 2015年1月14日 フィールドワークというお仕事 〜ヒト、チンパンジー、アフリカ〜

34期 保坂和彦氏(鎌倉女子大学准教授/マハレ野生動物保護協会日本支部代表)

第21回 2015年1月21日 霞ヶ関と地方自治体と沖縄

34期 岡本誠司氏(内閣府沖縄政策統括官付参事官)

第22回 2015年1月28日 テレビのお仕事・「視点を変える」ということ 〜「論文捏造」から「スイエンサー」まで〜

34期 村松 秀 氏(NHK コンテンツ開発センターチーフ・プロデューサー)

第23回 2015年2月4日 ランドスケープデザイ

ンという仕事

34期 篠沢健太氏(工学院大学建築学部まちづくり学科 准教授)

第24回 2015年2月18日 石油産業を通じた社会との関わり

34期 瀬尾 彰 氏(昭和シェル石油(株)中央研究所 主任研究員)

第25回 2015年2月25日 惑星科学とわたしたち

34期 安部正真氏(宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 太陽系科学研究系 准教授)

第26回 2015年3月4日 こどもの心臓病に立ち向かう人たち

34期 瀧間浄宏氏(長野県立こども病院 循環器小児科部長)

2014年度OBゼミ担当学年から

川瀬弘一(24期)

栄光学園を卒業後、みなさまは何回くらい栄光に足を運んでいらっしゃいますか。同窓会主催の **Homecoming Day** が企画されていますが、他の学校に比べると栄光生は母校に帰らない人が比較的多い気がします。24期は15年以上前から毎年お正月に同期会を開催、比較的卒業後の交流が盛んですが、今回、講師をお願いした24期生の中にも学校に来るのは卒業以来初めてという方が何人もいらっしゃいます。建物やアンツーカーが赤くないことや野球グラウンドのホームベースの位置が教室よりになっていることにびっくりする。

今回のOBゼミ講師の人選担当は、同期で唯一栄光学園教員となった黒木君に白羽の矢が立ったが、するりと身をかわされ、その矢が私に飛んできた。担当の飯野先生は今も栄光フィルや栄光メサイアソサイエティーで毎月のようにお会いして

いる大先輩、断れるはずもなくお引き受けしたが、さあ大変。24期のメーリングリストに流し早い者勝ちでと考えたが、手を上げてくれる方の仕事が重なったり、文系・理系のバランスが悪かったりしてはいけなと考える。結局は自分の独断で、同期会によく出席している方の顔を思い出しながら連絡を始めた。最初に声をかけた15人のうち12人の方が即座にOKの返事、都合のつかなかった3名分はみんなに声をかけようと6月にメーリングリストで初めてお願いしたところ、やりたいとの返信が山のように舞い込んでくる。遠くは北海道からも。お断りをした方には本当にすみませんでした。

少し希望をいうならば、24期生は10年前にOBゼミの担当はなく、その後同じ期からだけでなく少し若い期にも加わっていただいた方が講演に幅が出るとのことで現在の形に変更されたとのこと。結局24期は15人しか担当できないということ。しゃべりたい人がいっぱいいるので、もっと枠が欲しい。

さらに強く要望したいことは、将来の進路に役立つ面白い授業なのに、高1ゼミの中の一講座で10人程度しか受講していただけない。授業後に希望者が聞くことはできるが、毎回4〜5人程度しか来てくれない。全員が受講する必修授業にして欲しい。それだけの価値はあります。

ともかく、快く引き受けていただいた24期のみなさま、後輩に何かを伝えたいというお気持ち、本当にありがとうございました。また、私は最初と最後しか行けませんでした。ほぼ毎回、講師と大船の飲み屋街にお付き合いいただいた黒木君、ありがとうございました。

〔予告〕第7回教師音楽会 『音技フェスタ2015』 6月14日開催

同窓会広報部

会報No.82(2014年秋)でご紹介した、学園の先生方による、在校生・卒業生とその保護者向けのイベント『音技(おとわざ)フェスタ』が、今年も開催さ

れます。卒業生もふるってご参加ください。プログラム等、詳細情報が入りましたら、またご案内します。

日 時: 6月14日(日) 午後13:30開演

場 所: 小講堂

出 演: 飯野習一先生(物理)、古賀慎二先生(数学)、葛西一仁先生(英語)、古城 孝 氏(事務)、他。ゲスト出演者: Vallote(ヴァイオリンとコントラバスの女性デュオ)、トモヤ(ヨーヨーパフォーマー)



(昨年の『音技フェスタ2014』の様子)

恩師のこと

金子先生をしのんで

仲條誠司(27期)

2014年3月15日、5年ぶりに集う27期の同窓会で私に課せられた役割は、出し物コーナーで演じるフォス先生の声帯模写だった。宴が佳境に入りステージに呼び出された私は、前夜、劣化した声帯に鞭打って練習した瞬間芸の成果を披露しようと必死であった。

幸いにして湧き起こった万雷の拍手のなか、早々にステージを去ろうとした私の、その先の来賓席には、満面に笑みを浮かべ満足そうに喝采してくださった金子先生のお姿があった。その情景は、今でもそこだけ時間が止まり、切り取った静止画像のように鮮明な記憶として蘇ってくる。二言三言交した次の瞬間、期せずして先生から差し伸べられ

た握手の温もりを私は今でも忘れることができない。

そう言えば、かつて私が社会人の駆け出しだった頃、金子先生が、ある出来事で悲嘆に暮れていた私を激励してくださった時のことを思い出す。

旅行会社に就職した私は、偶然にも業務で同行する機会を得た母校の修学旅行で食中毒の惨禍に巻き込まれてしまった。行程の安全管理を果たせなかった会社としての大失態と、恩師や後輩達への計り知れないご迷惑に対し、私は只々頭を下げて謝ることしかできなかった。

母校に会わせる顔も無く苦渋の思いで謝罪に訪れた時、金子先生は

「食中毒の被害者でもあった君は、最後の一人を救護するまで苦しみを堪え、歯を食いしばって頑張ってくれた」とお話しになり、予期せぬ労いと励ましのお言葉に感極まった私は、その場に立ちすくみ返す言葉を失った。

我が父親が急逝した時、慌ただしく葬儀が終わって寂寞の日常が始まった頃、はからずも先生から一通の手紙が届いた。慈愛に満ち溢れたその一言一句に、人生経験も未熟な当時の私のみならず家族一同どれだけ励まされ、勇気づけられたことか。

金子先生は、学び舎を離れた後も我々に親しく心を寄せられて温かく見守り導いてくださった。

先生の突然の悲報に接し秋雨が降り頻る逗子の街を教会へと急いだ。

祭壇の遺影を前にして改めて込み上げる涙を抑えることができなかった。

言葉では言い尽くせない感謝の気持ちを込め万感の思いで天を仰いだ。

金子先生、ほんとうにありがとうございました。

安らかに眠りにつかれますことを心よりお祈り申し上げます。



(金子先生のお通夜の様子)

追悼 ピタウ先生との「特別な関係」

宇多文雄(8期)

ピタウ先生がなくなられた。とてもさびしく、心もとない気持ちにおそわれる。自分を理解してくれた人を失って、支えが外されてしまった感じである。

上智大学元理事長・学長として、またパチカンで数々の要職につかれた大の親日家として有名だったヨゼフ・ピタウ先生(1928年イタリア・サルデーニャ生まれ)は、田浦時代の栄光学園で中学生に英語を教え、生活指導をする形で、神父になる前に必要な「修練期」を過ごされた。この制度は栄光学園創立以来、大船移転後もしばらくの間続いたので、そのころの卒業生はどの期も、中学時代にのちの神父さんのいずれかと短期間ながら濃密な人間関係を築いた。私たち8期生にとってはそれがピタウ先生だったのである。

のちに上智大学に長年勤めることになった私は、激しい大学紛争期をみごとに乗り切ったピタウ理事長、大学に画期的な発展をもたらしたピタウ学長のもとで働いた。大学という組織は、会社や官庁のように指揮系統のラインに沿って昇進する(仕事の範囲と決定権限が拡大していく)のではなく、全

教員が横並びのスタッフとして仕事を分担しているところなので、学長や理事長と多少つながりがあったりも昇進したり、特別扱いされたりするわけではない。

ピタウ先生は私を採用したわけでも、抜擢したわけでもない。しかし、公私にわたる相談をもちかけた際には心のこもった応対をしてくださった。私はそれを、当然のように感じていた。「その昔相撲までとった特別の仲なのだから」。なにしろ中学時代に、海のキャンプの砂浜ではじき飛ばされる光栄に浴した経験があるのだ。私は中学時代の恩師ピタウ先生が、自分に特別の理解と支持を与えてくれていることを秘かに誇っていた。



(ピタウ先生と)

ところがおどろいたことに、この「誇り」は私だけのものではなかった。ピタウ先生は20年以上バチカンで重職についていた間にときどき来日されたので、ほぼ数年おきに大学教職員有志主催の歓迎パーティが開かれた。毎回その出席者が多いのもさることながら、顔ぶれがじつに多様だったのにもおどろいた。先生とはおよそ縁のなさそうな人がたくさんいたのである。

私が、なぜそこにいるのかを尋ねると、誰もが一緒に「いや、ま、人に言うことでもないが、私とピタウさんは特別な関係でしてね」というのである。ピタウ先生は付き合う相手誰にも、特別な気持ちで自分に接してくれている、という確信を与えたの

だ。

いかなるときでも、いかなる相手にも誠心誠意接するその態度が人をひきつけたのである。相手の名前だけでなく、その人が抱える問題を忘れない記憶力は驚異的であったが、誠意というのはそんなものに頼る交際術ではない。「この人は自分を理解してくれ、真剣に対応してくれている」という感動と信頼を多くの相手に与えることは、技巧でできるものではない。

この力は目下や同格の相手に対してだけ発揮されたのではなく、目上の人々をも魅了した。だから、アメリカ留学終了を期待して待っていたフォス校長は、帰国後の先生を上智大学にさらわれてしま

まったのだし、イエズス会日本管区は短期間日本を訪れた教皇ヨハネ・パウロ二世に自分たちの管区長をさらわれてしまったのである。

1月14日に聖イグナチオ教会でおこなわれた葬儀ミサ・告別式には約1300人が参列し、大聖堂だけではおさまらなかつた。その中には、どういふご縁なのかわからない人も少なからずいたが、私はその人たちにわけを尋ねる気持ちにはさらさらならなかつた。誰もが自分と「特別の関係」をもってくれた人を悼んだのだ。



(ピタウ先生と学生時代の筆者)

同期会に参加くださった恩師

広報部

同期会開催のご報告から、それぞれの同期会にお招きされていた先生方は下記の通りです。

| | |
|-------------|------------------|
| 6期(9月20日) | 稲田(順)先生、熊野先生 |
| 7期(10月25日) | 稲田(順)先生 |
| 10期(11月12日) | 熊野先生 |
| 16期(9月20日) | — |
| 22期(1月3日) | 稲田(千)先生、作道先生、迫先生 |
| 28期(11月15日) | 碓井先生、金子(好)先生、迫先生 |
| 30期(11月29日) | 飯野先生、荻野先生、熊野先生 |

(五十音順)

青木先生と梅津先生が体調不良ということで参加をご辞退されたとの報告があり心配です。一日も早いご快癒と、またいずれかの学年の同期会にご参加いただけるようお祈り申し上げます。

またご招待でこそありませんが、16期山本先生、角田先生、28期高田先生も同期メンバーとしてそれぞれの同期会に参加されています。

OB便り

16年間の同窓会活動を振り返って

前同窓会長 高須 保(13期)



小生、同窓会長を退任して約2年経ちました。今、退任直後の興奮から冷めて、自分が同窓会でやったことを冷静に振り返ることができます。

平成7年、それまで同窓会と縁がなかった小生に、突然、期(13期)の委員の役が回ってきました。期の委員を担当していた村田彰二君が大阪に転勤になり、交替要員として候補に上がったのです。当時、長男が栄光にお世話になっていたこともあり、気楽に引き受けたのがそもそもの始まりでした。そのときは2期の沼田さんが会長をされていました。期の委員を1年ほど担当し、今度は常任委員をとということになりました。そして、常任委員のとき、会長の湯沢さんがエルサルバドルの大使に任命され、急遽会長が交替することになりました。後任の会長は11期の後藤さん。後藤さんとは栄光在学中から面識があったためか、なぜか、小生は事業部担当の副会長に選任されたのです。

自分で言うのはおかしいのですが、根が真面目な小生は、毎月常任委員会に出席し、事業部の活動を一生懸命にやりました。事業部の仕事は、毎年栄光祭にときに行う「追悼ミサ」と「ホームカミングデイ」、卒業生が交替で高一の生徒に授業を行う「高一ゼミ」、それに、全同窓生を対象に4年に一度開催する「大コンパ」が中心ですが、それぞれ有能な後輩の補助者に恵まれ、順調にこなすことができました。

実は、小生は、ここで同窓会の仕事は終わりと考えていました。しかし、人生は意外な方向に進むものです。後藤会長は8年間勤められ、退任されるときに、当時の常任委員会の総意として、小生を後任に指名されたのです。そのとき、小生はいろいろな声を聞きました。「あいつは何者か?」という声。小生がいわゆる名士ではなく、一企業のサラリーマンに過ぎなかったからです。一方、「同窓会が身近に感じられるようになった」という声。小生の人柄を認めて下さった方々の声です。このとき、小生は、それでは後者の声に添った、誰もが参加しやすい同窓会活動をやろうと決意しました。

6年間の会長時代、小生が力を注いだのは、「アラムナイ」と「ホームページ」の充実による広報

活動です。とはいっても、小生自身がやったのではなく、優秀なスタッフが支えてくれたのです。「アラムナイ」は、12期の花井さんが献身的にやって下さり、記事が大幅に増え、内容も充実しました。「ホームページ」は、担当の蓮沼さんが東日本大震災の仕事に巻き込まれ、残念ながら、一時、とん挫してしまいましたが、苦しい中で、なんとか維持することができました。

事業部関係では、「追悼ミサ」、「ホームカミングディ」、「高一ゼミ」が、そのやり方、体制も含めて定着しました。また、新たに、ユニークな仕事をされている同窓生を講師とする「栄光OBフォーラム」をスタートさせました。懸案だった「大コンパ」もいろいろ工夫し、会長として担当した3年前の「大コンパ」(ALL 栄光 同窓会)では目標を達成する同窓生の参加を得ることができ、優秀の美を飾ることができました。そして、何より印象に残っているのは、天狗さんとウルチの追悼を同窓会として行うことができたことです。

今、振り返って、「自分にとって同窓会とは何か」と考えます。会則にはいくつかの目的が掲げられています。小生は、一言でいえば、昔から言う「同じ釜の飯を食った仲間の集まり」だと思います。6年間、共通の場所で、共通のカリキュラムで、共通の教師に教わる。しかも、その教師たちは固い信念を持って生徒に接しておられる。おのずと栄光の卒業生には共通の特性が備わります。「栄光生」だということで、なんとなく信頼感がもてるのもそのためです。そんなものを大切にしていきたいというのが同窓会の基本なのではないかと思います。

小生は、同窓会長を退任後、はからずも、学校法人の要請で、法人の理事を拝命しています。学校法人の体制(理事会・評議員会)も2年前に大きく変わりました。従来は理事会・評議員会は、イエズス会員、教職員やそのOB、卒業生という、言わば「栄光ファミリー」で構成されていましたが、現在の理事会には、数名の外部有識者も加わる構成になっています。

栄光は、創立70周年を前に、今、曲がり角に来

ています。一番大きな課題は、「カトリック校としての教育をどうやって維持・継承していくか」ということです。また、少子化の時代にあってどうすれば優秀な生徒を確保できるか、財務・経営体制をどう立て直すか等、理事会・評議員会では毎回きびしい議論が重ねられています。

金子校長は、昨年12月に発行された「後援会だより」の中で、栄光の歴史を振り返り、田浦においてゼロから出発して学校の形を整えた「創設期」、大船移転とそこでの再出発に伴う様々な困難を経験した「発展期」、学園内部からの改革の嵐に揺れ、新しい体制が次第に形を現した「変革期」、世代交代の中で築かれた伝統を維持発展させていく「継承期」、そして、21世紀を迎えて時代の変化とスピードに翻弄された「停滞期」を経て、今、学園は、この67年の基盤を支えてきたイエズス会の変容を現実のものとして受け止め、伝統を継承しつつ変化を遂げていく、新たな創設の時期であるとして、「再創設期」と捉えられています。

小生もまさにそのとおりだと思います。創立70周年記念事業は、単に、校舎を建て替えることだけではありません。時代のニーズに応じた新しい栄光の在り方を検討し、構築することだと考えます。

母校はなくて同窓会の存在する意味はありません。同窓会の皆様には、「再創成期」にあたる栄光を応援し、支えて下さることを期待します。

奇しくも、我々13期生は、今年、卒業50周年を迎えます。秋には、盛大な記念同期会の開催を計画しています。同期生160名のうち、すでに21名の仲間が他界し、全員が集まることができないのが残念ですが、より多くの仲間が参加し、旧交を温めるとともに、自分の人生の原点を再確認する場になればと思います。

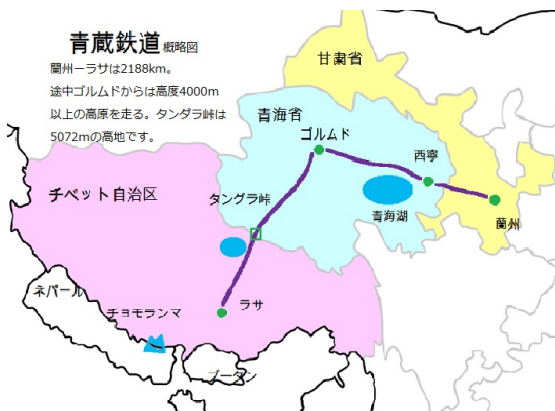
(注)「後援会だより」からの引用については、金子校長のお許しをいただいております。

チベット紀行(2014年10月)

大川 豊(14期)

【現在中国蘭州にて日本語教師】

10月の国慶節に有名な青蔵鉄道に乗ってチベットに行きました。私の住む蘭州からチベットの省都ラサまでおよそ2200kmあります。このうち青海省のゴルムドからラサまでの1100kmは海拔4000m以上の高所を走ります。列車は正午に蘭州を出発し、ちょうど青海省の青海湖を越えたあたりで日が暮れ、ゴルムドへは夜中に着きました。



翌朝6時に起きて、7時に食堂車へ行くと、頭が重く、軽い頭痛がします。列車はこの路線の最高地点5072mのタングラ峠を走っていました。峠を越えるとチベット自治区に入ります。



チベット高原

辺りは、青い空、白い山々、褐色の草原、ゆったり草を食むヤクや羊といったすばらしい景観が続きます。正午過ぎにラサへ着きました。所要時間は24時間ほどでした。



ニエンチャンタンラ山脈の景観

駅で入境検査を受けてから、ガイドの陽子さん(愛称)に案内されて、ラサ・ホテル向かいました。ホテルでゆっくり休養してから、夕食を食べに旧市街へ連れて行ってもらいました。ネパール人がコックをする店へ行きました。今、ラサではネパール料理が流行っているそうで、久しぶりに本場のカレーを味わいました。

翌朝、8時過ぎにポタラ宮観光へ出かけました。ポタラ宮は市の中心にある小高い丘の上にそびえています。1695年ダライ・ラマ5世によって建てられ、丘を含め高さ100m、長さ370m、部屋数が1000以上に及ぶ大きな殿です。宮殿の上層部は白宮と紅宮に分かれ、白宮はダライ・ラマの執務室や居住空間、紅宮は仏教施設で礼拝や祭儀が行われます。現在、ポタラ宮の観光は予約制で時間制限もあり、ガイドの案内に従って巡ります。



ポタラ宮の観光

中でも、紅宮は何層にも渡って、様々な仏像や宝塔が飾られ、特に、歴代ダライ・ラマの霊塔は黄金で造られ、宝石がちりばめられた豪華なものでした。

まるで宮殿全体が宝物殿のようで、長い歴史の中、散逸もせずによく遺されてきたと感心しました。

ポタラ宮の東側に旧市街が広がります。その中心にチベットの人達が最も敬愛するジョカン(大昭寺)があります。そして、そのジョカンを取り巻くように古くからの繁華街パルコル(八角街)があります。パルコルには日用品の店から、土産物屋、仏具店などが軒を並べ、その通りをジョカンへ参拝に来たたくさんの人々がぐるぐると何遍も回って礼拝しています。

ジョカンは7世紀にチベットを統一したソンツェンガンボ吐蕃国王を弔うために、王妃達によって建立されました。その王妃の一人が唐の玄宗皇帝の娘の文成公主で、彼女が唐から持ってきた釈迦像が本尊だそうです。

次の日も8時過ぎに観光へ出かけました。まず、ホテルの近くにあるノル布林カ宮へ行きました。ノル布林カ宮は18世紀中頃ダライ・ラマ7世によって建てられた夏の離宮です。ポタラ宮と違って、広い敷地に低層階の宮殿が二つあり、周りはたくさんの樹木で囲まれ、正面は鉢植えの花々で飾られていました。1959年ダライ・ラマ14世はここからインドへ亡命しました。宮殿の居室は当時のままの状態が残されていました。



ノル布林カ宮：18世紀にダライ・ラマ7世によって建立

それから、ノル布林カ宮のすぐ向かいにあるチベット博物館を見学しました。博物館で最も印象的だったのはタンカと呼ばれる仏画の掛軸でした。絵筆で画かれたものから刺繍や織り込まれたものな

ど様々で、曼荼羅や諸仏、高僧などが描かれ、チベット芸術の粋と言えます。

午後からラサの北にあるセラ寺へ行きました。セラ寺はチベット仏教の最大宗派ゲルク派の主要な寺院で、15世紀前半に建立され、往時には5000人を超える僧侶がいたそうです。また、20世紀初頭、河口慧海がチベットへ密入国し、この寺でチベット仏教を学んでいたことで有名です。仏堂の一角に慧海を記念するコーナーがありました。ここも参拝者で溢れ、本尊をお参りする長い行列ができていました。

ラサは海拔3650mにあり、人口は28万人、高層ビルが少なく、こじんまりと落ち着いた都市でした。気候も温暖で、寒暖の差はありますが、快適でした。高地のため生鮮食品は他省からの輸送に頼り割高ですが、新しいスーパーもできて生活も安定しているようです。ジョカンを中心とした旧市街ではチベット族が居住しており、西側の新市街では四川省から移って来た漢族が増えているようです。

ところで、最近ラサへの外国人の個人旅行が認められるようになりました。もっとも個人旅行とはいえ、現地の観光会社を通じて旅行許可書をもらい、ガイドの帯同がなければ旅行ができません。今回、陽子さんというチベット族の娘さんがずっと案内してくれました。上手な日本語を話すので、どこで習ったのか聞くと、チベット大学の日本語科を卒業したということでした。

ラサのガイドを依頼した陽子さん(チベット族の娘さん：左)と
現地大学で日本語教師のK先生



チベットでも日本語を教えているのです。すっかりうれしくなり、セラ寺の観光を終えてから、陽子さんにチベット大学へ連れて行ってもらいました。大学

では日本語を教えているK先生や留学生の日本人の方々にお会いし、歓談しました。なんとK先生は若いお嬢さんでした。それから、皆でパルコルのレストランへ出かけ、チベット料理の夕食を楽しみました。中国で日本語を教える身としては、若い日本人の先生達のはるばるチベットまで来て、日本語を教えていることがすばらしいと思いました。

翌朝、10時の列車で蘭州へ戻りました。3泊4日と車中2日の短い旅行でしたが、天気にもめぐまれ、楽しく過ごすことができました。ただ、今回はラサだけでしたので、次回はシガチェなど他の都市を巡り、ヒマラヤ山脈を眺めてみたいものです。



金子先生と祖父野中到

野中 勝(12期)

昨夏、NHKの土曜ドラマで取り上げて頂いた「富士山頂の妻」は、120年も前の出来事ですが、私の祖父と祖母の話です。

祖母千代子は大正時代に亡くなりましたが、祖父到は私が9歳になる迄存命でした。

祖父は同じ逗子市内の海が見える小さな庵に住んでいました。近くでしたので時々会いに行っていましたが、寡黙な人でいくら思い出そうとしても祖父の笑っている顔が思い浮かびません。と言って怖いという印象ではなく、昔の武士のような端正で物静かな人でした。



(祖父と筆者)

会話の記憶は残念ながらありませんが、祖父から菓子を戴く時は、正座をして重ねた両手を差し出し、頭を下げて受け取ります。子供心に時代がかっているような気がしないでもありませんでしたが、そうするのが当然とも思っていました。

祖父母に関しては、これまでも映画やテレビで何度か取り上げられ、現在も年に一、二回は書籍への写真と記事の掲載許可を求められます。時には話を聞きたいと訪れて来る人もいます。その都度、父にもっと話を聞いておけばよかったと悔やむのです。

特に最近、祖父よりも祖母の方に取材が集中

しています。

ただ、新田次郎著「芙蓉の人」はかなり創作を加え、事実と異なっておりますので、その点がNHKとの擦り合わせで一番苦労したところです。

いずれにしましても、微力ながら明治の一つの業績を語り継ぐお手伝いが出来る責任と幸せを感じています。

後回しになって申し訳ありませんが、今年の秋深まる頃、金子先生が帰天されました。先生は私の高三の時の担任で、ずっと年賀状のやり取りが続いておりましたが、到頭それも途切れてしまい、まさに寂しい風が吹き抜ける思いでした。

故谷口先生のお嬢様がソプラノ歌手で、隔月に逗子でコンサートをされていますが、その折などに金子先生にお目にかかったことを思い出します。

先生には驚かされたことがあります。先生の『歴史散歩』で、平成25年5月の【護国寺から新緑の神田川べりを歩く】の回では、我が家の墓の前で、先生が祖父母と私のことをお話しされたと聞きました。私が先生にお話しした事はありませんので、そんなことまでご存知で、墓まで下調べされていたのかと心から敬服した次第です。

そんな金子先生と我が家とは不思議な因縁があったことをつい最近知り、これまた驚いています。

昔、父が祖父を乗せて逗子の湾をボートで横断したところ、突然海が時化て遭難しかけたという話は父から何度か聞いて知っていました。ところがそのボートは金子先生の奥さまのご実家から頂戴したものだったそうです。そんないきさつがあったとはつゆ知らず、それが分かったのは残念ながら先生がお亡くなりになった後でした。

しかもその由来を知ったいきさつも又、意外な出会いからでした。実は先生の最後のほんの一時期、私の妻がケアマネージャーとして、偶然、先生のお世話をさせて頂きました。その折、奥様がお話しして下さったのです。個人情報ですので、妻も最後になるまで先生と関わっていることを打ち明けていませんでしたが、聞いた時は偶然と偶然の重なりに驚いた次第です。

妻の仕事とはいえ、ほんのささやかではありますが

が、先生の最後のお世話ができたのは、光栄なことでした。

先生のお顔とお声を想い浮かべながら、ご冥福をお祈りしたいと思います。合掌。

福林 徹君、秩父宮記念スポーツ医・科学賞「功労賞」受賞

高須 保 (13期)

このほど、13期の福林徹君が、「秩父宮記念スポーツ医・科学賞」を受賞された。



(福林徹氏)

同賞は、生涯を通じてスポーツに関心をお寄せになり「スポーツの宮様」として親しまれていた故秩父宮殿下を記念して、日本体育協会が、故秩父宮妃殿下からの御寄贈金を基に基金を設立し、スポーツの向上と振興には欠くことのできないスポーツ医・科学の分野を対象に、我が国スポーツ界の更なる発展を期するために創設したもので、平成9年度より表彰を実施している。

同賞には「功労賞」と「奨励賞」があり、福林君は、多年にわたりスポーツ医・科学分野においてその向上発展に貢献し、我が国スポーツ界の振興に特に功績顕著な者として、第17回同賞の「功労賞」を受賞した。

福林君は、永年にわたり、専門分野のスポーツ医学(整形外科)において豊富な臨床実績を積みとともに、基礎的な臨床研究に取り組み、治療実

践と研究の両面で多大な功績を残してきた。

福林君の功績の中でも、特に膝前十字靱帯二重再建術における半腱様筋腱の再生の研究は、世界のスポーツ整形外科医から注目を浴びた研究となった。これは、平成19年に、スポーツ外科分野において世界的権威のある国際関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会の「John Joice award」を受賞するなど、世界的な評価を受けており、我が国スポーツ学会においては「膝の福林」を称されるほど、研究者及び競技者から絶大の信頼を得ている。

また福林君は、平成19年度から日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会委員長として、日本体育協会の各種研究事業を牽引してきた。自らも研究プロジェクトの班長として各種研究事業に参画し、多岐にわたる活動に携わってきた。代表的なプロジェクトとしては、「日本におけるスポーツ外傷・障害サバイランスシステムの構築」があげられる。本プロジェクトではスポーツ外傷・障害を分析し、原因を確定することで、予防につながる疫学的研究の重要性を説き、日本で行われる主要な競技会におけるスポーツ外傷調査を規格化し、世界基準と比較検討できるシステムを構築した。その後、日本スポーツ振興センター、スポーツ安全協会に協力を呼びかけ、学校管理下・管理外での全国的なスポーツ外傷(スポーツ災害)の統計データを分析し、我が国におけるスポーツ外傷の実態を明らかにした。

さらに、「子どもの発達段階に応じた体力向上プログラムの開発事業」では、子どもの体力低下、あるいは運動している子どもとしない子どもの二極化現象が問題視される今日において、子どもが発育・発達段階に応じて、身につけておくことが望ましい動きを習得するための運動プログラムとして「みんなで遊んで元気アップ！ アクティブ・チャイルド・プログラム」を発行するなど、子どもの運動・スポーツ指導にも取り組まれた。

この他、日本臨床スポーツ医学会理事長、日本関節鏡・膝スポーツ整形外科学会理事等、国内外における学会役職を務め、各種学会活動に精力

的に取り組み、我が国におけるスポーツ整形外科的研究の発展に貢献した。また、日本サッカー協会ではスポーツ医科学委員会及び同委員会委員長を務め、Jリーグのチームドクター及びトレーナー制度の確立や、平成7年からサッカー日本代表のチームドクターとして合宿及び大会時に同行し、我が国サッカーの悲願であったワールドカップ出場に向け、選手を陰ながら支え、平成10年に開催されたサッカーワールドカップ・フランス大会への出場という快挙に貢献した。

福林君は、研究者としての功績もさることながら、教育者としての指導力にも優れ、同君の研究室を巣立った卒業生の多くは優れた研究者、教育者となり、現在我が国の体育・スポーツ科学の分野の第一線で活躍している。

(治療中の様子)



私は、栄光の6年間、福林君と同じ軟式テニス部に所属していた。対戦成績は五分五分くらいのいいライバルだった。卒業後は進路が違ったため、あまり多くの接点はなかったが、ともに田浦テニスコートで汗を流したことはよく憶えている。その仲間から、こういう立派な人材が出たことは同期生として誇りに思う。奇しくも、我々13期生は、今年卒業50周年を迎える。秋には盛大に記念同窓会を開催する計画を進めているが、その席でまた福林君の話を聴くことを楽しみにしている。

離嶼沓回 大東島

池添博彦(8期)



(北大東島にて)

ラジオの気象通報を聴いていると、大東島の名がよく出てくる。宮古や沖縄に続いて出てくるので、南の方にあることは解っていた。先島諸島の宮古、石垣、西表は訪れたが、大東島は中々機会が無かった。

大東島では、人は鉄籠でクレーンに吊られて上陸するらしい。行ってみたいと思った。長い春休みが取れたので、40日余りの島行を計画した。

大東島は沖縄本島の東360kmの処に、北と南に分かれてある。太平洋の孤島である。村のフェリー‘だいとう’が那覇から6、7日に一度出航している。一隻が往復しているので、天候により不定期になる様だ。

2月半ばに旅程を組み北海道を出発したが、天候が思わしくなく、3日程出港が延びてしまった。仕方ないので先ず久高島に行くことにした。

久高島

那覇からバスで1時間乗ると、東海岸の安座真港に着く。港の東7kmの処に、久高島が横たわっている。集落は島の南端に集まっている。長さ4kmの細長い島で、周りは500m幅で珊瑚礁に囲まれている。

東側には砂浜があるが、西側は高さ10mの崖が続いている。島は平坦で中央と海岸沿いに道が南

北に伸びている。久高島は沖縄でも特に聖なる島とされており、民俗行事の多い処である。

住民はかつては600人いたが年々減少し、現在は200人余りになってしまった。以前は久高と外間の2つの村が存在したが、今は久高だけである。

琉球神のアマミキヨがこの島に降り立ったとされ、琉球発祥の地と見做されている。年中行事は旧暦で行われ、正月のピーマティ(火の祭)、ソージマティ(麦の穂祭)、ヒータチ(大漁祈願)、3月のマティ(麦収穫祭)、6月のミルクグワティ(太陽祭)、8月のヨーカビー(御嶽(ウタキ)参り)、10月のマーミキグワ(大漁祈願)、11月のフバワク(お祓い)、12月のウプヌシガナシー(長寿祀り)などがある。

中でも最も重要な祭りは、12年に一回行われているイザイホーである。女性だけの祭りで。午の年の11月15日より4日間、神女になるため、30歳以上の結婚した女性が島の拝所を廻り、ウドンミヤー(御殿庭)で祈りと踊りをする。

ウドンミヤーは村の広場に聖殿(アシャギー)があり、近くに島の始祖シラタルを祀る宮と海蛇(イラブー)の燻製小屋がある。女性は30歳になると神に仕えるオナリ神となり、70歳になるとその役を終える。イザイホーは六百年間守り続けられたが、1978年が最後の年となり、その後は適齢期の女性の減少のため実施されていない。

久高の土地は私有ではない。15歳になると一定の土地を割り当てられ、70歳で村の共同体に返還する。男達は以前は半年間マグロ漁に出掛けていたが、今は農業や近海漁に従事している。

島は珊瑚礁でできており、海拔が余り高くないため、海が荒れると塩の影響を受け、農業には向いていない。本島より水道が敷設されているが、昔は水が不足していた。

水場は西側の崖下に幾つかある。崖を深く掘り下げ、石段を降った処に水場が作られている。祭りの時、神女がここで禊をする神聖な水場であり、ヤグルガーと呼ばれている。

フボー御嶽(ウタキ)は琉球の七大ウタキの一つで、先祖霊を祀る聖地であり、神女のみが入域を許されている。木立の中に径30m程の広場が設け

られ、ここで聖なる祀りが行われる。

イラブーは海蛇であるが、港近くの岩の割目に産卵に来るのを捕え、トグロを巻いた形で燻製にされる。燻製法は五百年の昔から伝えられており、神殿の隣にある小屋で燻される。イラブーは神や王府への供物とされるが、その汁は現在でも滋養食として珍重されている。

島の若者は、高校がないため島を出てしまうので、老人の多い島となっている。小中学校が一つある。子供を少しでも増やすために、14年前より山海留学制度を作り、本島や内地から呼び寄せている。小学生8名、中学生32名中、13名は留学生である。島には留学センターが付設されており、専任の先生と一緒に寮生活をしながら、課外活動や勉強を指導している。

学校は村の中心にあり、学習発表会、七夕、餅つき大会(正月)、浜の追い込み漁(6月)、運動会(9月)、エイサー(7月の先祖供養)などは、地域の人全員が参加して学校行事を盛り上げている。

久高の対岸の安座真港より2km丘を登った処に、琉球王朝で最高の聖域である斎場御嶽(セーファーウタキ)がある。琉球の始祖アマミキヨは久高に降りた後この地を訪れ、聖地と定めた。傾斜した岩より鍾乳石が垂れ下がり、水滴が下の壺に滴っている。

二つの岸壁が凭れるように重なった間を抜けると、正面に久高島を望む遥拝所がある。神女の長である聞大君(キコエオオキミ)の即位はこの地で行われた。

大東島

荒天で延期していた船がやっと出るようになった。港には大型船が多く係留されていたが、それらしい船は見当たらない。苦労して探し当てたフェリー‘だいとう’は、幾本もある波止場の一番隅の貨物船の陰にあった。

600tの船の甲板にはガスボンベやガソリン缶が並んでいる。暫く出港していないので、生活用品を満載している様子である。客の定員は50名だが、半分しか乗っていない。

船は那覇を夕方発って、翌朝に大東島に着く。北と南に交互に荷と客を降ろし、翌日の夕方から2日かけて戻ってくる。

大東島は北と南に分かれており、その間は8km離れている。更に160km南に沖大東(ラサ島)がある。昔は砂糖黍を栽培していたが、今は無人島である。

島は沖縄の360km東に位置する。琉球語では西はイリ、東はアグリという。大きいのは古語はオホキイで語幹はオホである。琉球語では母音のオ、エは各々ウ、イとなるので、オホはウフと変る。大東島の琉球名はウファアグリシマである。

大東島は190年前露艦船により存在が知られ、船名に因んでボロジノ島と命名された。明治になると我国により探索が行われて、明治18年に日本領となった。

島に開拓民が移住したのは明治33年である。八丈島出身の玉置半右衛門が開拓民を送り込んだ。玉置は明治12年鳥島のアホウドリに目をつけ、羽毛と鳥の糞を羽布団と肥料として販売し、莫大な利益を得た。

玉置は次いで大東島の開拓を目指し、開拓民を募って帆船回洋丸で八丈より鳥島、鹿児島、那覇を経て、明治33年1月23日に、23名が南大東島に上陸した。

当時島は無人で、蒲葵(ビロウ)に覆われていた。一行は南島で砂糖黍を栽培し、3年後には北島の燐鉱石採掘事業に着手した。火薬と肥料の原料として、燐鉱石事業は成長し、最盛期は台湾や沖縄からの出稼ぎで、人口が四千人まで増加した。港には燐鉱石を選別したトンネル状の建物が遺っている。

玉置は沖大東島の開拓も目論んだが、明治43年に鳥島を訪れた帰りに病となり亡くなった。

地質学上、大東島は4800万年前にニューギニア近くの火山として誕生した。それがフィリピンプレートに乗って北に移動するうちに、火山の周りに珊瑚礁ができ、裾礁、環礁と変化し、内部が隆起して現在の形となった。

島は海底から二千m程の山頂にあり、年に4〜7

cmで北に移動している。

島の形は、北島は半円形、南島はほぼ円形である。周囲は北島13km、南島21kmで、島の周りには30～40mの崖で、浜と呼べるものはどこにも無い。皿にドーナツを置いた形で、海岸近くが小高く盛り上がり、幅が500m～1km続いており、中央は低く凹状の平地である。

土壌は赤茶色で有機質が少なく、至る処に珊瑚の岩が露出している。島の周りの小高い処は防風林として残されており、その内側と低地が畠になっている。中央には湿地や池があり、一部は底部で海と繋がっている。

島全体が珊瑚礁でできているので、水捌けが良過ぎ、雨が多い割には水不足になり易い。至る処に溜池が作られている。

畠は砂糖黍が主作物で、他に南瓜、馬鈴薯が作られている。南瓜と馬鈴薯は2、3月に収穫されるので、本州の端境期の産物として人気がある。

黍は2、3月が収穫期で、tあたり5千円、補助金をプラスして2万円余になる。沖縄地区の主要産物であるが、補助金が削減されれば打撃を被ることになる。

北島の広さは12km²、南島は稍大きく26km²で、人口は北島550人、南島は1450人であり、北大東村と南大東村の二つの村から成っている。

言葉は八丈から移住した人と沖縄からの人とが混じり合い、大東方言が成立した。八丈方言としてはドブ(池、沼)、カンモ(薩摩芋)、アバヨーイ(さようなら)、ホーリソ(暴れん坊)、コックバ(台処)、バーメー(牝牛)、チョンコ(小さい)、ガマン(忍耐力のある様)などがある。

琉球語ではミヤラビ(娘)、チトウミテ(早朝)、チブル(頭)、ウトウゲエ(顎)、ミイナダ(涙)、ウッティー(一昨日)、ケエンナ(腕)、アンマー(母)、ジン(銭)、ウシュ(潮)、チビ(尻)、マース(塩)がある。

島には幾つか港があり、風向きによって使い分ける。港といっても岸壁があるだけで、突堤や波止場がある訳ではない。うねりが大きい為、フェリーは直接岸壁に横付けできない。10m位離れて止めると、クレーンに吊り下げられた艀が海に降ろされ、

フェリーの沖側に廻り、海中に固定された碇から伸びた浮子を手繰り寄せ、フェリーに繋ぐ。大波でフェリーが岸壁に叩き付けられるのを防ぐためである。海中には2ヵ所に9百tの錘が据えてあり、船と陸の間隔を保っている。

貨物と人は陸上のクレーンで甲板から吊られて移動する。甲板には一間四方の鉄籠があり、揺れる波の頃合いを計って、クレーンで持上げられる。籠に入り込むのにも苦勞したが、ロープ一本で高く持上げられる時は肝を冷やす思いがした。北と南で結局4回籠乗りのスリルを味わうこととなった。

村営フェリーは天候次第なのでよく欠航する。生活用品の多くは船に頼っているの、船が着いた2日間位は店に品物があるが、その後はかなり寂しい状態になる。

漁船の着ける港がなく、海は常に荒いため、漁業は殆ど行われていない。岸壁から釣りをする人が幾人かいた。ガーラ(かすみあじ)やカマジーガーラ(ろうにんあじ)が釣れる。大きいものでは80キロを超えるものが釣れている。

大東島は台風の通り路である。風速60mを超す大型台風が来襲する。島外からの漁船の避難港が北島の南部に造られていた。石灰質の岩礁を100×300mの方形に削り込み、大型漁船が入り込めるようにしている。切り取られた崖の下では、潜水夫が海面下の作業をしていた。

働く人に訊くと当初は70億円の予算であったが「百億円は懸りそうだな」と話していた。同様の大型港が南島にも完成しているが、余り地元には恩恵が無いようである。

港を掘削した石灰岩は、海岸に沿って山積みになっている。大型の岩が石垣上に組まれ、土が盛られた上部は平地になっている。石灰岩は初めは真白で美しいが、風化すると黒く変色する。整然と伸びる高い石垣を初めて見た時、要塞のようで、その目的を図りかねたが、工事中の港を見て、潮害を防ぐのに廃土や岩を海辺に築いたことが解った。

北島では村興して、観葉植物栽培や鰻(あわび)と海胆(うに)の養殖を試験的に始めている。

村営の月桃工場は、自生している生姜科の月桃の葉を1t3万円で購入し、精油と繊維を採取している。精油は10kgより10mg採れ、これにラベンダーや他の精油をブレンドして香水にしている。

葉の繊維は糸に紡いでカリコシシャツを編み、精油の搾り糟は和紙や肥料にする。他に葉を乾燥させて茶も作っていた。

北島では一ヶ所、南島には二ヶ所、崖下の岩を四角くプール状に削り貫いた、水浴場が作られている。深さは1m程だが、かなりの凹凸がある。潮が引き、波の穏やかな時に利用できるが、集落から遠く、風も強いので、泳げる時は少ない。

南島は北の2倍以上あり、中央に20余りの大小の池が点在している。黍島が広がり、処々に石灰地質特有の窪地ドリーネがある。径20~30m深さ10m位の播鉢状や筒状地形で、水が溜まっていたり、木や草で覆われていたりする。

島全体がカルスト状なので鍾乳洞も多い。星野洞は狭い洞が細長く、且つ深く続いており、湿度が高いが水の流れは見当たらなかった。石筍や鍾乳石を間近で見ることができる。全体が真白い石灰岩の洞で、見物客も少ないため汚されておらず、他の鍾乳洞よりも美しく素晴らしい眺めである。洞の処々に包装された酒瓶が置かれている。訊ねてみると「中学校の卒業時に各自がここに焼酎の瓶を納め、成人式の日に島に戻って酒を酌み交わす」とのことである。

南島の中央にラム酒工場がある。黍の搾汁(糖度14%)を2週間発酵してアルコール8%にし、それを蒸留によって58%に濃縮し、一年半熟成してラム酒を作る。

北側の林の中にバリバリ岩と呼ぶ場所がある。石灰質の大岩が2、3mの幅で垂直の壁となっている。高さは20~30mで上部に繁る木々のため間は薄暗く北に向かって急に下っていく。

島が1年に数センチずつ移動している証しであり、この場所で大地が引き裂かれているらしい。強力なプレートの動きにより、岩が振れ、千切れる処と思うと、バリバリ岩の名は相応しいと思えた。



(大地の裂け目(南大東島))

池の水は灌漑にも使われるが、底の方は海水が交っているため、汲み上げ過ぎると塩害になる。池には大型の蛙が棲息している。台湾から害虫駆除の目的で取り入れたらしいが、今では殖え過ぎて困っている。毒があり食用にはならない。車に轢かれて干涸びた死骸が路に点々と落ちている。

昔は砂糖黍を集める専用のシュガートレインが島中を廻っていた。幅90cmの狭軌に、小型の汽車が黍集荷の台車を引いていた。今はトラックが替っているが、処々に軌道跡が残っている。

集落は南にあり、数件の店屋と食堂と宿がある。珍しく4階建のホテルがあった。秋篠宮夫妻が来島するので、慌てて建てたそうで、一棟だけ目立って高い建物である。

島に寺は無いが、大東神社と秋葉神社がある。祭には八丈伝来の踊りと神輿が出て、八丈相撲が行われる。大東神社の森には翼幅1m程の大東蝙蝠が棲んでいる。秋篠宮はこの蝙蝠が目当てであ

った。

気象台からは朝夕2回定時にラジオゾンデを揚げて、30km上空の気象を観測している。自動的に打揚機から風船が膨らんで発射され、計器を空高く運んでいく。1回の打揚に3万円かかり、年間2200万円の観測代である。

防風林の木々にはナイロン製の紐が張り廻らされてあった。これはイネヨトウ虫とセンチュウを駆除するためにフェロモンを入れた紐であり、4か月間有効らしいが、どれ程の効果があがるのだろうか。

石灰岩が点在する島では、畠を作ると大岩で農機具が壊れてしまう。国は10町歩の土地に1億円かけて畠の構造改善を実施している。地面を2m近く掘り下げ、土と岩を選り分けて、土壌だけを戻して、岩の無い畠に作り変える大規模な作業である。費用の95%は国、残りの5%の内2%を村の補助に依り、個人の負担は3%のみである。かなり優遇されていると思えるが、不便な離島に住民がいることは、国防上重要なことがその一因らしい。

港に向うシュガートレインの線路跡には潮害を防ぐための松並木が続いていた。傍らの碑に次の唄が彫られている。

「塩屋松並^ムぬ 枝持^{チュラ}ちぬ美らさ

島ぬ美^ミ童^{ヤラビ}ぬ 身持^ムち清^{ジュ}らさ」

「樹木^キゆ植^{ウスカジ}り習^{シヌ}てい 潮風^{ウスカジ}ん防^{シヌ}ぎ

島ぬ基^{ムトウ}でむぬ 世々^{ユ ユ}ぬ努^{チトウ}み」

同期会報告

六期回想の集い(2014年9月20日)

鈴木顯一(6期)

去る2014年9月20日土曜日、雨もやいの一しながら、どうにかパバリ程度で過せた一日でした。

昼過ぎに旧校舎の田浦・船越に六期39名(残存者120名の約1/3)が集いました。

久々のReunionでもあり同期仲間が熟年高齢者75歳に突入とのこともあり、懐古趣味溢れる船越の旧校舎を尋ねるのも許される年期と判断したものです。



ご存知現在では防衛省海上自衛隊船越基地となっており、自衛艦隊護衛艦隊潜水艦隊開発隊群の四司令部が置かれ、各司令官の存在を顕す「白地に桜三枚」の旗が棚引いていました。

こうした畏れ多い司令部への見学は、元海上自衛隊幹部の先輩1期野崎亮氏と41期黒川貴幸氏



(現役の海上自衛隊護衛艦隊司令部衛生主任幕僚2等海佐、素性は防衛医大卒の医師です。)お二人の伝手とお陰で許されてこの日の見学となったものです。

さてこの旧校舎には12期までが学び舎として通ったのですが案内のように以降今の現役中学一年生の67期までは大船に移り、旧校舎への郷愁は薄いものでしょう。

《因みに12期石井邦夫氏が『旧校舎見学記』としてALUMNI 82 2014年12月5日発行に詳しく現状を記載されていますので、旧校舎にご興味ある方は繙いてみてください～》

半世紀前の我らが旧校舎は、土台を残して改築されており、面影はあるものの様変わりした息吹をひしと感じさせました。

唯一昔のまま残っていた旧中学校校舎には特例として入館が許され、使用中とて声を潜めての廊下通り抜けとなりました。

ガイド役を休日返上で買って出てくれた黒川さんの案内は、さすがに的を射たもので聞くことすべてが懐かしく構内全域を目を見張って歩いたものです。ここで自衛隊、船越基地、校舎建物の名称、係留中の船舶の用途などは無用かと、恰も「舞踏会の手帳」の如くに懐かしい一頁を捲れたと喜ぶものです。

この基地全部がこの2年の内に総建替えとなり、校舎ほか全てが記憶にのみ留まることとなります。

横須賀には老人を惹き付けるような好都合の食事処がないのか全員でゴトゴトと横浜へ移動。横浜スカイビル「Cruise Cruise」のbuffetに、多少参加者の出入りがあったもののここでも39名が揃い、体育の熊野忠敬先生、理科の稲田順一先生のご参加を得て和気藹々と懇会を楽しみました。

飲み食いの内容は何処も同じでしょう。会場の後ろ白壁に幹事小金沢君作成のオ

ートスライドでの中1から高3までの学校生活、遠足、体育会、修学旅行、更には卒業写真の画像が映し出された趣向には出席者が惜しめない拍手を送ったものでした。

幹事(田中淳一、三春勝正、浜田利郎、小金沢英夫の諸氏)には深謝。より拍手を送りたいのはこの日に平淡な心で集った同期の面々でしょう！

楽しい会はそれなりの人々が集って成り立つものだと思われ、行く先少ないながらいいい思い出となる頁を見事に埋めてくれた一日でした。

7期同期会報告(2014年10月25日)

石川俊克(7期)

7期同期会は、2014年10月25日(土曜日)、一昨年から会場となった横浜中華街の萬珍楼で開催された。出席者数は40名。2009年、卒業50年記念大会の69名をピークに年々減少してきた。

午後6時、荻原佳紀君の司会で始まった。冒頭、この一年間に故人となられた元参議院議員の石渡清元君、アメリカに永く在住していた佐藤政人君、元自衛官の江成元秀君を偲んで黙祷。次いで、第1回同期会から幹事役を務める及能茂道君の挨拶、伊橋憲彦君の乾杯の音頭で開宴となった。

当日の飲物はフリードリンク制。歳とともに同期の酒量は減る一方だが、萬珍楼が特別提供してくれた紹興酒だけはすぐ空になった。味覚だけは未



だ衰えていない。

和気あいあいとして食事・歓談が進む中、最初に、毎年ご出席頂いている稲田順一先生から若き日の学園の思い出や近況についてお話を伺った。先生は相変わらずお元気である。次に、本会直前にご逝去された金子省治先生を偲んで、元山岳部の小島克己君から追悼の言葉があった。

また、十数年ぶりに出席した大須賀輝雄君からは在日外国人に日本語を教えているとの近況報告があり、脊山洋右君は「癌を克服して人間ドックの医師となった」自分の実体験を紙芝居にして熱演、それを橋本敬太郎君がアシストした。原宏君からは肺炎予防注射を受けるようにとの勧告があり、石光章君からは大阪在住の松本健太郎君について近況報告があらた。会計担当幹事の齊藤肇君からはEACON加入の勧めと、栄光70周年事業に7期会として10万円寄付する旨報告があった。

最後に、未だ現役でバイオリンを弾いている金澤洋君の指揮でEiko High Foreverを合唱。

来年は同期の多くが後期高齢者となる。次会の再会を誓い合ってお開きとなった。

笑顔、笑顔、懐かしく、楽しい、思い出のひと時 栄光学園10期生同窓会(第19回)(2014 年11月12日)

青木嘉光(10期)

平成26年11月12日(水)午後6時から、HOTEL PLUMで第19回栄光学園10期生同窓会が開催された。

当日は、10期生48人が出席。恩師、熊野先生のご臨席を賜った。例年ご出席頂いていた稲田先生は直前に体調を崩されご欠席。誠に残念であった。

一昨年、卒業50周年同窓会を箱根で盛大に開催してから早いもので2年。10期生も皆、昨年あるいは今年、古稀を迎えた。しかしながら、この間、お別れをしなければならなかった友人が3人、それ

にご指導を受けた恩師、谷口正男先生、金子省治先生、ウェーバー先生。開宴に先立ち、これら6人の方がたをお偲びして黙祷をささげた。

続いて、お久振りにご臨席賜った熊野先生に御挨拶、乾杯の御発声を頂きパーティーの開始。熊野先生は「栄光学園では42年間教鞭をとった。特に中学1年の担任をして、最初に基本を教えるのが楽しかった。」とのお話。喫煙室でタバコを吸われ、ウィスキーはオンザロックと87歳を迎え、ますますお元気なご様子は、田浦の体育館で鍛錬されていたお姿を思い出させてくれた。

暫く自由に歓談、料理を食べ、お酒もまわり、会場にもぎやかに盛り上がってきたところで、久しぶりに参加の田寺宏さんが近況を話してくれた。

ついで、今回残念ながら欠席の方たちの近況報告。まず、カナダ在住の小松克明さんからの手紙が読み上げられた。前々回は「カナダで奥様を亡くし寂しい」という手紙の紹介があったが、今回は一転、大変喜ばしいことに、写真と腕立て伏せのイラスト入りでお元気な様子が描かれた手紙が披露された。それに続いて、平井重文さんから、「体調不良で療養中だった臼井紀男さんが快復され、元気にゴルフを一緒にした」という、うれしい、うれしい近況報告の二重奏となった。その他、山本遼さんが北海道に転任になったことなどの報告もあった。



宴もたけなわ、そろそろ料理、お酒も残り少なく、デザートとコーヒーが出だした頃あいで、各種グループ活動についての報告が行われた。小藤晃さんから「東条湖の家を運営するノアの現状と寄付のお礼」、中前峻さんから、「120回を迎えますます盛んな“10期ゴルフ会”の状況」、続いて青



2014年栄光学園10期生同窓会(第19回)
於 ホテル プラム 2014. 11. 12

計を見上げると、なんともう予定の22時。大変楽しい、一夕も終わってしまった。

10期生の皆さん、お元気でまたお会いしましょう。

木10期委員から同窓会本部関連事項として「学園創立70周年事業」、「5学校法人の合併」、「新ホームページEACONの活用」についての話があった。

そして、次期幹事として朝海和夫さん、徳永威久さん、柿沼宇佐さんが選出された。

いよいよ大詰め、恒例により「千里の波濤」“Eiko High Forever”を山本信さんの指揮で合唱、

福田祐郎さんが持参の高精細写真の撮れる超高級カメラで全員の集合写真(冒頭に掲載の写真)を撮影して中締め、一次会終了となった。



その後、別室に移り二次会。29人が残り、自由に席を移動しながら、時間の経つのも忘れ談笑が続いた。ホテルの方に「もう、そろそろ」と言われ時

16期同期会(2014年9月20日)

山本洋三(16期)

16期の同期会は、1986年より隔年で行われています。それまでは3年に一度のペースだったのですが、それでは一度欠席すると6年も経ってしまうから、隔年にしてほしいとの要望があつてのことでした。しかし最近では、寄る年波におそれをなしたのか、欠席すると4年もあいてしまうのは不安だ、毎年にしたらどうかという意見が出る始末です。いずれそうなるのかもしれませんが、幹事としては、今のところ隔年のペースは守っていくつもりです。

会の形式は、マンネリの極致で、原則として9月の土曜日の午後6時から8時まで、横浜の崎陽軒本店の会場に集まり、「久しぶりの出席者」だけが簡単なスピーチをして、あとはひたすら飲食、歓談し、写真を撮っておしまい。二次会はそれぞれが勝手に行くということになっています。会費は8000円でしたが、年金生活者には高すぎるという意見もチラホラ出るようになって、今では7000円に



値下げしました。そのうち、もっと値下げということになるのかもしれませんが。

最近では、失礼ながら先生もお呼びせず、何の企画もしないこの会ですが、参加者はここ15回の平均が48名、今回は53名でした。総じて増加傾向にあります。みんな、だんだん昔の友だちが大事になってきているのでしょう。

インターネットの時代にもかかわらず、我々の世代は、SNSなどを使いこなせる人間は少なく、せいぜいメールですが、それで、会のお知らせや出欠の確認は、往復ハガキを使っています。そのハガキに「近況」を書いてもらっているのですが、それを「近況集」として毎回冊子にして配っています。それには、出席者と欠席者の両方の「近況」が掲載してあるので、それをネタに歓談もでき、また欠席者の様子を知ることできるので、おおむね好評のようです。手元にある15冊の「近況集」を見ると、この30年間のそれぞれの人生の推移の一端がうかがわれ、しみじみとした感慨を覚えます。

こういう会は、長続きすることがいちばん大事だと思うのですが、長続きさせるためには、幹事のやる気がなくならないようにすることです。そのために、幹事になるべく楽をできる形式として、こうした簡潔なやり方が定着しているようです。今回から新幹事

も迎え、これからの高齢者としての生活に潤いを与えることのできる会として、末永く続けていきたいと思っています。

22期同期会(2015年1月3日)

橋本幸博(22期)

22期同期会は、2015年1月3日(土)16時から、藤沢駅に程近い湘南クリスタルホテルで開催されました。ここは、22期の田村龍也君が経営するホテルで、クラシックなデザインがとても優美です。同期の飯田修一君が設計したチャペルは厳かな雰囲気です。ステンドグラスが実に華麗です。同期会の計画や連絡などは、主として母校で英語を教えている小池君が行い、会場の設営は、石井章雄君が仕切り、受付は宮君と渡邊俊郎君が担当してくれました。参加者は22期57名と山田真之助夫人と稲田千秋先生、作道宗三先生、迫嘉邦先生の三先生です。青木利道先生と梅津尚志先生は、体調が芳しくないということで、残念ながら欠席でした。

還暦を目前にしての同期会で、人によっては風貌が変わってしまい、一瞬誰かわからない出席者もいたので、渡邊君が用意したネームプレートが



大いに役に立ちました。座席は、米田君が用意したくじ引きで決めて、丸テーブルに振った番号に従って着席します。

加藤元章君と小林晋一郎君の軽妙洒脱な司会で同期会が始まりました。

冒頭に、昨年8月に急死した山本敏弘君に黙祷を捧げます。続いて、恩師からのご挨拶を頂戴しました。稲田千秋先生は、22期同期会への招待に感謝の言葉を述べられます。迫先生は、相変わらず加山雄三に似ているとの評判ですが、先日4時間連続して車庫の塗装作業をしていて、頸椎を痛めてしまったとのことで、そのタフさに驚かされました。作道先生は、22期を教えたのが教職の初めての経験だったので、皆さんは私の犠牲者だと言って、皆を笑わせていました。「バカボン」は健在です。

記念品贈呈では、石井君が選定してくれたウィスキーグラスを三先生に差し上げました。大いに喜んで頂けたようです。欠席された青木先生と梅津先生には、後日送付しました。

近況報告では、高田智夫君は、広島で不動産事業をしていて、同期会の出席は久しぶりだが、皆に会えてうれしいと喜んでいました。東京大学地震研究所教授の額綱一起君は、地震予知が困難な理由を、実験ができないこと、時間スケールが長い現象なのでデータが少ないこと、確率的現象なので具体的な予測が不可能であると説明しました。

菅野君が編集したOBゼミのビデオが映し出されて、しばし静寂が会場を包みます。建築家、歯科医、実業家、エンジニア、脳外科医など社会に第一線で活躍している同期諸君が、遙かに若い後輩たちに様々なテーマでゼミをする様子に皆感心していました。

私たちの年代では、定年を目前に控えて第二の人生をどうしようかと考えたり、孫の写真をうれしそうに見せたり、娘にいい相手はいないかと相談を持ちかけたり、という話題が多かったようでした。

会場では、宮島君がスナップ写真をまめに撮影してくれて、後日ウェブにアップロードしてくれました。



テーブルを囲んで立ち並び、山内君のピアノ伴奏による「Eiko High Forever」の合唱で気炎を上げ、卒業後40年という時間の壁が忽ち消失します。そして、最後に全員で集合写真を撮影しました。

2次会の会場は近くの「NEXUS」という店で、バーニャ・カウダやピザなどをつまみながら、出席者26名で酒杯を酌み交わしました。楽しい時間はあっという間に経過します。

同期会の運営に協力して下さった方々、ご出席下さった方々、残念ながら欠席で盛会を祈念して下さった方々に篤く御礼を申し上げます。次回の同期会にご期待を！

28期同窓会(2014年11月15日)

高橋英治(28期)

2014年11月15日、毎年お世話になっているホテルプラムにて28期同窓会が行われました。

28期はもう何年も続けて毎年同窓会を開催しています。毎年開催すると無理しくなくても来年出席すれば良いかと考えるのか、このところ出席人数が40名以下とあまり規模が大きくならないのが残念ですが、それでも久しぶりに顔を見せてくれる同級生もいるので楽しみであることは変わりありません。

今年はメールでの連絡に加えEACONのイベント機能を用いて出欠を募りました。実のところEACONの認知度、使用率がさほど高くないこともあり、幹事はメールの返信とEACONの出欠とを両方チェックすることになり、かえって手間が掛かったかも知れません。しかしEACONには出欠回答と同時にコメントを残せるので残念ながら都合のつかなかった欠席者のコメントを同級生たちが読みに行くことができる点は良かったと感じました。

今年の28期同窓会には金子校長、碓井先生、迫先生をご招待しましたが、青木先生は体調が完璧ではないとのことでご辞退されました。早く復調されてお元気な姿を見せていただけるようお祈り申し上げます。

金子校長からは70周年記念事業の現状と学校法人統合についてのお話をいただき、予想通り募金の依頼を頂戴しました。みんな募金については

敏感に反応し、年齢50を過ぎても若者のように騒ぐこと。どうせなら気持ちよく募金しましょうよ。

恒例の同級生スピーチでは久しぶりにルーミアから帰国して元気な顔を見せてくれた杉本君、卒業以来初めて？同窓会に顔を出してくれた大久保君、懐かしの清泉女学院とのジョイントコンサートの合唱録音を披露してくれた垣本君、みなさんありがとうございました。また幹事には時間をいただいてEACONの案内もさしてもらい、数人の方にはその場でパスワード設定と28期グループに登録していただきました。



一次会はEIKO HIGH FOREVERで締めて、ほとんどの参加者が二次会に移動。二次会からの参加者も交えて更に盛り上がりを見せていました。

幹事の大蔵君、田中淳夫君、田中良樹君、二宮君、協力いただいた青木君、高田先生どうもありがとうございます。

次は誰が久しぶりに元気な姿を見せてくれるだろう。また1年後にみんな集まろう。



30期、半世紀を過ぎての同窓会

増木洋介(30期)

前回の開催からは3年ぶりとなる30期同窓会を、2014年11月29日(日)の15時から横浜駅近く鶴屋町のCRANEビル1F「RIGOLETTO OCEAN CLUB」で開催した。

今回はあまり手間をかけずに開催を通知したにもかかわらず、約40名の懐かしい顔が集まってくれた。

気心の知れた友人たちが受付を快く担当してくれる。名札を並べ受付準備完了。見覚えのある顔が徐々に集まり始め、会費を受け取り、名札を渡す。順調に参加表明をした人が集まり、なんとドタキャンはゼロ。さすが？30期だなあ？

今回は、ご多忙の中、熊野先生、荻野先生、飯野先生の3人の恩師にご参加いただいた。また、お声掛けさせていただいた多くの先生方からも、今回は他の予定と重なってしまい残念だが、次回は是非参加したいとのお返事をいただいた。

会の冒頭で同年夏に亡くなられた同期の細野真一さんのご冥福をお祈りして、開会。熊野先生

の乾杯でスタートし、荻野先生からの軽妙なお挨拶などを交え、多くの会話の輪が出来た。

今回も開催場所の交渉は金兵氏の尽力に因るところが大きかった。残念ながら金兵氏は、急遽仕事が入り欠席だったが、お手頃料金で料理やお酒はとても美味しく、お店のサービスは大変充実していた。いつもながら感謝。

さて、1時間ほどしてからだったろうか。衆院選を直前に控え騒動の渦中にあった浅尾慶一郎氏が会場に到着した。浅尾氏本人から状況の説明があり「ご心配をおかけしていますが、大丈夫です！」との力強い発言で、会は大いに盛り上がった。自らの声で直接同期の皆に説明するため参加してくれたのであろう。(その後15分ほどで会場を後にした。)



半ばを過ぎたところで、飯野先生がご多忙の中駆けつけてくださった。息も整わないうちにご挨拶をいただくこととなったが、温かいメッセージをいただき、ますます会は盛り上がっていった。

会も終わりに近づいたところで、最後に次回の幹事を決めようということになった。これまでは毎回サッカー部が主体で開催していたのだが、いいかげん別の部に委譲したい。比較的参加者の多い、もしくは在籍者の多い部の代表が、皆の声で呼び出された。6～7人でのジャンケン勝負の結果、みごと新延氏が負け残り、次回はバトミントン部が幹事となることが確認された。次回よろしくね。

最後に熊野先生からお言葉をいただき、全員で記念撮影をして1次会を終了した。

二次会はほど近い「ティキティキ」というお店。一次会参加者の半数以上の29名がなだれこんだ。実は、我々は熊野先生が一次会でお帰りになられると思っていたので、タクシーを一次会会場まで呼んでいたのだが、先生自らが「二次会に行きたい！行っちゃダメなの？」と強く望まれ、それならば！ということで喜んでご参加いただいた。（お体は気になったが、同期の医者も参加していたため大丈夫だろうと。）先生を囲み、これまた大いに盛り上がった。

一次会の後、金子氏がしばらく姿を消したと思ったら、ドンキホーテの袋を提げて戻ってきた。袋の中には「太鼓」。そう、体育祭の組体操等でお馴染みであった「熊野太鼓」を再現しようという試み。それを見た熊野先生はたいへん気に入って下さり、ちょっとオシャレな店内で「デデン、デン」。幹事としては、店を追い出されないかと、ちょっとヒヤヒヤしたものの、金子氏の粋な計らいには大いに感謝。楽しい懇親の場は2時間ほどで終了し、再び熊野先生に㍻ていただき、皆で再会を約束した。思い起こせば、熊野先生大活躍の一日でありました。まだまだお元気でなによりです。

今回、参加できなかった方、次回は是非。また、この記事をご覧になっていて開催のメールが届いていないという方は、下記アドレスまでご連絡くださ

い。（アドレスを変更された方も）次回は幹事から、確実にご連絡が出来るようにしたいと思います。

hiro-yamada@kanagawa.email.ne.jp
（アドレス等連絡先の情報は30期同窓会委員の山田宏幸さんまで。次回幹事は本文をご参照くださいね。）



※掲載写真は前回に続き川上(充)氏によるもの。

写真撮影役は、十分に友人との会話や食事を楽しめないと、快諾いただき有難うございました。

支部活動

JXグループ栄光OB会を開催

志田謙太郎(45期)

森 真治(50期)

昨年11月18日(火)、JXグループに所属する栄光OBの懇親会を開催しました。

JXグループは、ENEOSの新日本石油と、JOMOのジャパンエナジーと日鉱金属を傘下に持った新日鉱ホールディングスが2010年に経営統合して発足した企業グループで、エネルギー・資源・素材の未来を切り開くべく事業活動を展開しています。

両社の経営統合以前からそれぞれで栄光OB会を行っていましたが、経営統合後の2011年に第

1回OB会を開催しており、今回は3年ぶり2回目の開催となりました。JXグループに所属するOB全員で約20名のうち、首都圏勤務のOB14名が参加、かなりの割合で集まりました。年代も16期から53期までと幅広い構成となりました。



今回は栄光にゆかりのある場所ということで、横浜にある社員クラブを会場としました。会は20期外池氏による乾杯の発声にて開始し、その直後、外池氏から最近開催された20期会の写真が披露されました。写真に写っていらっしゃった先生方がどなたか、という話題で盛り上がり、これを契機に参加者の緊張感がほぐれました。

次に若手から順に自己紹介を行い、その後自由歓談に移りました。席割も各年代のOBが入り混じるようにしたこともあり、世代を超えて、皆でそれぞれの過ごした栄光時代のことを語らいあったり、また若手社員が先輩社員の経験談に耳を傾けたりなど、会は盛り上がりを見せていました。開始から2時間が経過した後、本会で最も先輩にあたる16期山縣氏による中締め挨拶で、会はお開きになりました。

年代は違っていても、同じ栄光という場で中学高校時代を過ごし、今は同じ会社組織に所属しているメンバーの会ということで、皆で共有できるものも多く、普段とは一味違う楽しく有意義な時間を過ごせたと感じました。次回は2年以内に開催することになりましたが、今後も継続していきたいと考えています。

遠征報告：第22回2014JJHAF杯4校対抗戦in福岡

高橋正明(19期)



JJHAF杯初めての福岡開催

恒例「JJHAF杯サッカー4校対抗戦」も22回目の開催となったが、今年は上智福岡(旧泰星学院)が幹事校のため、JJHAF杯初めての福岡大会となった。

◆日時：2014年11月22日(土)～23日(日)

◆幹事校：上智福岡高等学校サッカー部OB会(旧泰星学院、福岡)

◆行事：

11月22日(土) 前夜祭【博多・華味鳥中洲本店】

11月23日(日) サッカー対抗戦
(上智福岡高校グラウンド)

懇親会【博多百年蔵】

◆栄光参加者：14名(10期生～56期生)

栄光は、参加の4校中一番東に位置し関東からの遠征試合となったが、前夜祭に現地集合し、翌日試合後に設定された懇親会に出席してからの帰京となり、まる2日間の行程となるためかなりの距離を感じたが、参加者のほぼ全員がすべての行事に参加し、元気に交流を深めることができた。

せっかくの遠征の機会なので今年は特にOB会の現役長老プレーヤーに多くの参加を呼びか

けた結果、今大会最高齢者となった佐藤晃一氏（10期）以下6名が60歳以上、40歳代、30歳代、20歳代（6名）と幅広い年齢層の混成チームとして参加することができた。

大会ルールと試合結果

60歳以上の選手は赤パンツ着用で、お馴染み高齢者得点変則ルールにより、60歳以上のプレーヤーの得点は5点勘定となる加点方式で、以下の対戦が展開された。

第1試合：泰星OB（勝）vs栄光OB

第2試合：六甲OB（勝）vs広島OB

第3試合：六甲OB（勝）vs泰星OB

第4試合：4校連合軍により、40歳以上vs40歳以下の交流戦

今大会の特徴として、各校ともシニアの年長OBと若手の混成メンバーがうまく機能して次世代への息吹を感じさせるものがあった。

特に第1試合など、地元泰星の若手OBが容赦なく走りまくり、年長栄光シニアも必死にこれを制しながらの接戦になり、好試合であった。

泰星OBは、学校創設が後発であったため最年長OBが35歳と他校に比較すれば圧倒的に若い。相手が赤パンツでも泰星若手OBが本気で競り合い、途中監督から「注意」が与えられたが、それだけ両社とも真剣に対戦できた事は、栄光シニアにとっては「まだまだやれる」という自信につながり、泰星にとっては他校の長老OBとの対戦の際の教訓となり、試合全体はキリッと締まって緊張がみなぎり見応えがあった。

一方、六甲と広島の戦いは、相手を熟知したベテラン同士の対戦を展開したが、シニア世代でバランスよくチーム編成ができた六甲が盤石の体制で揺るがなかった。広島勢は、いつも牽引車となるシニア主要メンバーが揃わず例年に比べ新人メンバーが増えた分波に乗り切れなかったのかも知れない。

六甲は、引き続き泰星の若手チームとも対戦したが、若い泰星OBの疲労が激しく、必死に攻める

もゴールを割ることができずベテランの味を生かした六甲OBが優勝を果たした。

従って、優勝カップは、昨年優勝の広島山根会長から、常勝六甲の会長湯川氏の手元に奪還された。

4校心の交流戦

今大会で改めて実感したのは、22回もの長期にわたり対戦を繰り返して来たJJHAF杯の重みである。上記の通り対抗戦では若手OBと年長OBとがうまくバランスを取りながら各校とも真剣に戦い、交流試合としてすがすがしい結果を残した。しかし、本当に交流試合を堪能できたのは、単に晴天野下遠征試合を無事に消化できただけでは無かったからではないか。

前夜祭は、泰星OB会に福岡中洲の老舗水炊き屋を手配していただき、名物を堪能させていただいた。各校とも多くのメンバーがすでに顔馴染みであり、着席後すぐに打ち解けて、長老は長老同士、若手は若手同士でどんどん入り混じり、あつと言う間に一次会を終了してそれぞれ二次会に繰り出した。もちろん、若手の交流は地元泰星OBの徹底的な案内で朝まで続いたらしい。また、お馴染み仲良し長老組も博多の地にして最も重要な交流戦を繰り返した訳である。



翌日の午前中の試合にはまだ三次会気分の選手もいたようだが、先に報告の通り、試合は試合で十分気合いが入った真剣勝負を展開。そして最後の

4校合同の若手対年長の試合も全員で楽しみながら試合が成立するところがまたなんとも言えず交流戦の醍醐味となった。試合後にバスを仕立ていただき、空港近くの「百年蔵」という老舗の造り酒屋を改造した素晴らしい宴会場に勢ぞろいし、さらに手厚いもてなしを受けた。



こうして報告すると博多でどんちゃん騒ぎをしただけと聞こえるかも知れないが、節目節目で何度も耳にしたのは、こうやって4校が打ち解けて22年間も対抗戦を続けることができた事、本当に毎年真剣に戦い、お互いの健闘をたたえ合いながらも、翌年こそは優勝を、と改めて心に誓うスポーツマンシップと、最年長73歳から20歳そこそこの若者までが一緒にプレーできる機会、を称賛する言葉であった。

また、今回最も重圧を感じたのは幹事校となった泰星OB会だったのではないかと思うが、多くの参加者からその心のこもった準備と手配に感謝の言葉が掛けられ、試合後のシャワーで温水が出ないハプニングもすべて帳消しとなって、兄貴分の3校にその存在を認めてもらった喜びが若い代表者の挨拶にもにじみ出ていた。一同大変お世話になったが、これが長い歴史に支えられた交流戦の神髄だろう。

2014年度バドミントン部OB会開催の報告

樋口祐介(57期)

11月22日(土)、毎年恒例の栄光学園バドミントン部OB会が元町中華街「萬珍楼」にて開催されました。今回は5期の高井名誉会長が残念ながらご欠席でしたが、4期から62期の方総勢30名が集まりほぼ例年通りの規模となりました。

4期の島田元会長及び18期の服部会長のご挨拶から会が始まり、各テーブルでの歓談やお一人ずつの近況報告などが行われました。お孫さんが生まれた話から在籍している大学の話まで様々な話題が提供され、バドミントン部OB会が全く異なるバックグラウンドを持った方々の集まりであることを改めて認識させられる会となりました。(それゆえ貴重な交流の場となっているのだと感じております。)

バドミントン部OB会では代替わりが進みつつあります。前回のOB会にて5期の高井さんに代わり18期の高井さんが会長に就任され、また長年一人でOB会の準備をなさっていた28期の水島さんに代わり今回は57期の私と同期の梶原が会を設けさせていただきました。

萬珍楼の会場には大きな中華テーブルが四つあり、年齢順に着席することが習慣になっています。例年は四つ目のテーブルにおおよそ50期以降の



方が集まる形でしたが、今回は三つ目のテーブルに57期が着席するほど若手の参加者が多く、代替わりを象徴しているかのような光景でした。

ところで、ここ数年いらしていた43期の三谷衆議院議員ですが、「解散が無ければ参加します」とのご返事を頂いておりました。結果は皆さん御存知の通りで、残念ながら今回はご欠席。しかし、ご本人不在にも関わらずOB会においてはしばしば話題に上がっており、次回またお呼びするのを楽しみに感じております。

今後も栄光バドミントン部の益々の発展を願うとともに、これをご報告とさせていただきます。

第11回バドミントン部OBコンペ報告、および次回のご案内

島崎裕之(26期)

11月30日(日)、恒例の第11回のコンペを、京急の國生伸氏(22期)、日向淳氏(29期)のご尽力で、『市原京急カントリークラブ』開催した。

初冬の早いスタートにも関わらず、暖かい陽気に恵まれ、久しぶりに3組(10名)ものメンバーで日頃の腕を競い合った。

今回は服部秀昭会長(18期)が2年連続4回目となる優勝、初回コンペ以来、海外(現在はハワイ)に勤務され、今回一時帰国中で5年ぶりの参加であった中嶋康介氏(29期)が準優勝と、『明治安田生命』のコンビで独占した。

以下3位 下田精治氏(25期)、BBは急きょ初参加の江田滋人氏(17期)。

DCは、砂川佳昭氏(25期)、足立光明氏(32期)、NPは下田氏と服部会長がゲットした。

今回は、前出の江田氏、國生氏とフレッシュ?な顔ぶれや、5年ぶりの中嶋氏も加わり、今までに増して和やかなムードでのコンペであった。

次回再度東急のコースに戻り、『季美の森ゴルフ倶楽部』で5月31日(日)に開催予定である。若手世代の初参加、また久しくコースでお目にかか

っていない高井貞夫名誉会長のご参加を期待したい。

参加希望、お問い合わせは万年幹事の島崎裕之(26期)

E-mail: Hiroyuki_Shimazaki@tokyu-hoken.co.jp
TEL 090-1660-5583 まで是非ご一報願いたい。

2014年栄光法曹会へ参加して

山田眞之助(22期)

去る12月4日(木)神谷町のレストラン ヴォワ・ラクテ(Restaurant Voie Lactee)で栄光法曹会の定期年次総会が開催された。2年前より公認会計士・税理士栄光会の会員も参加させており、申し付けにより報告の役を務めさせていただく。

当日は裁判官3名を含む法曹30名余と公認会計士10名弱総勢約40名が集まり、石原慎一郎弁護士(51期)が司会をされた。まず稲野和利さん(20期 日本証券業協会会長)が「日本の金融資本市場を巡る諸問題」のテーマでパワーポイントを投影して活力ある金融資本市場の実現と投資家の裾野拡大に向けて講演された。少子高齢化と社会保障システムの揺らぎが待ったなしの状況下において、長引く超低金利の中においても金融資産の現預金への偏りが顕著なのは日本特有の問題である。日本版スチュワードシップコードの受け入れ機関投資家が160を超え、コーポレートガバナンス・コードの制定の動きもあり、今貯蓄から投資への流れを加速する必要がある。NISAの開設数が727万口座を超え、総買付額が1兆5千億円となったが、過度の期待は禁物である。金融経済教育の推進は国際的な潮流であり、我が国においても身につけるべき金融リテラシーを設定すべきである、との示唆に富む講演であった。その後質疑応答があり、栄光で学んだ一番の思い出は何かとの質問については「なすべき事をなすべき時にきちんとやる」ことを教わったことと、生涯の友人を得たことで

す、と答えられたのが印象的であった。



続いて須須木永一法曹会会長(13期)による乾杯の発声で忘年会がスタートした。司法修習生も多く参加され、大きな窓越しに緑の庭園が美しい眺めの中で、美味しい食事とともにワインも進み歓談の輪がいくつも広がった。栄光法曹会は1期から58期まで会員数は215名で毎年名簿が更新されている。我が公認会計士・税理士栄光会もこれに見習って名簿の整備の必要性を痛感した。



宴もたけなわのころ澤田壽夫先生(1期)が「栄光は大きな家族である。初対面であっても栄光の教育を受けた同窓の心はひとつである」と参加者の共感を重厚なお言葉で述べて下さった。最後に梅津立弁護士(32期)から、来年は栄光法曹界40周年の節目の年になるので、何か記念になる企画を予定していますとのアナウンスがあった。

日本成長戦略改訂2014年ー未来への挑戦ーの諸施策が軌道に乗り、アベノミクスが順調に進むためにも資本市場のインフラを支える法曹と公認会計士・税理士がタッグを組んで貯蓄から投資へ

のトレンドを支援し、秩序と活力ある金融資本市場の実現のために尽力したいと思う。我々会計士は仕事柄弁護士の方々とは会計監査人と社外取締役や監査役として、また各種M&Aにおけるリーガル・デューデリジェンス(DD)と財務DDのアドバイザーの立場で共に汗をかく機会があるが、裁判官の方々とは共に働く機会はほとんどないので、大変貴重な機会であった。



毎年このような交流の場を設けて下さる20期の法曹関根修一さん、30期の会計士の木村浩一郎さんに御礼を申し上げます。

新年のOB・現役交流野球

前田善博(54期)

毎年1月3日は新年恒例の野球大会の日です。

この企画は47期の川上さん、柳生さんが年末年始の帰省時に「キャッチボールでもしたいね」ということで始まったと聞いております。今年で6回目の開催になるのでしょうか。当初は近い期の方々に声を掛け合い、壺岐先生のご協力のもと、グラウンドをお借りしてOBだけで行っていましたが、2012年から現役高校生が参加してくれるようになりました。現役生とOBを合わせて20人以上が参加する会となりましたので、午前には現役生 vs OBで1試合、昼食は現役生とOB一緒の交流ランチ、午後に現役生とOBの混合チーム同士で1試合、夜は懇親会と盛りだくさんの一日となっています。1月4日か

ら仕事始めの社会人にとっては充実した新年のスタートとなります。今年は私も参加させて頂き、昨年から高校野球部監督に就任された吉田先生にもご協力を仰いで、参加者は30人近くになりました。前は現役生として今回はOBとして参加した人もおり、この企画が長く続いていることを実感します。



(ホームベース上のクロスプレイ)

当日の試合では、野球を離れて久しくボールが見えていない人、定期的に野球をして衰えを感じさせない人、寒さに凍える人、箱根駅伝の結果が気になる人など様々な人間模様がみられます。栄光学園のグラウンドで1つのボールを追いかけて、1点を取る為に必死に走り、1アウトを取る為に懸命に守るといった中学・高校時代に戻ったかのような感覚は非常に感慨深いです。また、現役生にとっても多くのOBと触れ合うことで、今後の進路を決めるうえで一助になるのではないかと僭越ながら考えております。



(老岐(手前)、吉田(奥)両先生、お世話になりました)

このように栄光学園野球部のタテのつながりができ、脈々と続いていけば嬉しく思います。OBの

連絡名簿が無いので、当日の案内はFacebookや各期のメーリングリスト、LINEなどのコミュニケーションツールを駆使しておりますが、みなさまに漏れなく周知できていない可能性もあります。本稿をご覧いただいた野球部OBの方(もちろん野球部OB以外の方でも)、1月3日の野球大会にご参加いただければ嬉しい限りです。来年は満を持してご参加ください。ご質問等ございましたら以下の連絡先まで遠慮なくお問い合わせください。

<連絡先>54期・前田

yos.maeda1112@gmail.com



(現役・OB仲良く記念撮影)

栄光野球部OB会設立の動き

発起人 花井勝三(12期)

母校は2017年に創立70周年を迎えるに当たって新校舎建設に取り組んでいます。野球部は1期生が中2の時に創ったそうですので、2018年に創部70周年を迎えます。

母校卒業生は10,000人を越え、野球部OBは1,000人いるとも言われていますが、栄光不思議の一つで野球部OB会はありません。過去に設立の動きはありましたが、残念ながらうまく離陸せず、今日に至っています。

今、機運は熟しています。まず、1期生初め母校

草創期の野球部先輩方がOB会設立に力を貸したいと言われていること。また、期を越えて野球部OB間の交流は結構活発であり(例えば、12期・13期の練習と試合、19期～23期のOBチームが15期監督のもと鎌倉でトーナメントに出ていること、27期が毎年母校でソフトボールの試合を行っていること(学年行事)、46期～62期の若いOBが正月3日に母校グラウンドで現役との試合やOB間親睦試合を開催していること等々)、繋がりをつければすぐにもOB会になるのではないかとはいえるほど素地があります。加えて、野球部の元部長や現部長の先生方より「野球部OB会があったらいいね。指導や支援を期待できるから。」といった声が上がっています。53期・54期が2005年に全国大会に出場したとき野球部OBのみならず全校挙げて支援の盛り上がりを見せましたが、「何か支援したい」という声は常にあります。

OB会がないまま長い年月が経っているので今さら感がないではないですが、OB会があれば好きな野球への接点が増えます。母校野球部を応援したり、往時の思い出を語ったり、もう一度バットやグローブを手にする機会すら生まれます。

そこで3月14日土曜日に8つの期の有志OBが集まり、OB会設立に向けた予備会合をもちました。この会合で、全ての期に連絡委員を立ててもらい、期メンバーへの連絡はこの委員を経由することとし、早速、期連絡委員の選出に入っています。このアラムナイが発行される頃には1期から63期を網羅する待望の連絡委員リストが出来上がっているでしょう。また、期連絡委員には、できる限り、「設立準備会」に入ってもらい、OB会立ち上げの準備に参加してもらうことにしています。

設立準備会は4月・5月の助走期間を経て、6月から活動に入ります。OB会会則、会費規程、組織・人事案などの草案化を行う一方、10月或いは11月の設立総会の準備を担います。総会当日は第1部としてOB対抗野球試合、第2部として設立

総会ならびに懇親会を開く予定です。全野球部OBがわくわくして集まってほしいと願っています。

どんなOB会にするかは「設立準備会」で協議し深化させますが、「OB同士が楽しく集える会がいい」「野球をやった仲間なので、野球の試合をやりたい(野球をやれなくても見に来たい)」「アフター・ベースボールもいい。ソフトボールやゴルフコンペもいい」「現役野球部に対し物心両面の支援をしよう」となどと考えている人が多いと思います。また、各期メーリングリストやEACONなどの媒体を通じて、現役の試合の応援予定やOB会の活動の様子などを発信して、面白そうな会であることを伝えていきたいと思います。さらに、各期には必ずエピソードや思い出の写真があるので、持ち寄ってOB会アーカイブを作ろうといった考えもあります。

栄光野球部OBの皆さま、どうぞ、ご意見・ご要望を期連絡委員を通じてお寄せください。

設立総会のイベントは必ず全員にご案内しますので、万障お繰り合わせの上お集まりください。

茅ヶ崎栄光会新年会報告

島崎裕之(26期)

1月17日(土)、茅ヶ崎駅北の『MOKICHI FOODS GARDEN』にて、茅ヶ崎栄光会恒例の新年会が開催された。

今回は①70周年事業校舎建て替え、②学校法人合併、という2つの大きな節目を迎えており、萱場基理理事長にもご出席いただき、この話題を中心に学園の近況をお話いただいた。出席者は近年では最も多く、OB9名が集まった。

山口会長の挨拶、酒井氏の乾杯に続き、萱場理事長からのご説明をいただいた。

資材人件費高騰による建設費の増大に対し生徒の安全確保を達成するため、一部設計変更を

伴い実施する決断に至ったこと、法人合併の趣旨と学園自体は変わらず運営する旨をお話いただき、OB各位からも様々な質問意見があり、情報交換が図られた。

茅ヶ崎栄光会は昨年より年に4回ほど食べ歩き等のプチ同窓会を始めており、その他イベントも昨春の大地引綱大会を始めとして、小規模組織ながらも活発に活動している。ただ常連メンバーの最若手も50代半ばを迎えており、一段と？若いメンバーにも是非参加していただきたい。(いやご年配の方々も大歓迎ですが・・・)

地元で語り明かす同窓会も楽しいものですよ！

詳細は事務局(27期:金子和)

E-mail:eiko.chigasaki@edu.que.jp

または、EACON『茅ヶ崎栄光会グループ』まで



前列左より 山本明徳(7期)、萱場基理事長、山口洋一郎(13期・会長)、後列左より 伊藤紀一郎(22期)、金子和(27期・事務局長)、栗原和男(21期)、伊藤利一(22期)、酒井伸雄(2期)、島崎裕之(26期)、中村司(7期)

栄光同窓カトリックの会講演会のご案内

浜田利郎(6期)

栄光同窓カトリックの会事務局

栄光同窓カトリックの会では第12回全体集会で

下記の講演を企画致しました。関心をお持ちの方はぜひ講演を聞きにいらしてください。

「イエズス会と教育」

(草創期のイエズス会教育の歴史—ヨーロッパとキリシタン時代の日本)

筑波大学教授

日本カトリック教育学会会長

日本カトリック神学院講師

桑原 直己 氏(21期生)

日時:2015年6月6日(土)

講演: 14時～16時

懇親会: 16時～17時

場所:カトリック雪ノ下教会・信徒会館

会費:1,000円

主催:栄光同窓カトリックの会

問い合わせ先:

世話人代表 前川 卓(1期生)

Tel: 080-6739-7088

歴史文学散歩

栄光学園同窓会歴史文学散歩

2014年9月27日開催

「鎌倉西北部の天神山～寺文を歩く」

黒田浩史(25期)

爽やかな秋の一日、絶好のハイキング日和の中、大船駅に14名のメンバーが集まり今年度第二回目の歴史文学散歩が開催された。金子先生は残念ながら体調を崩されているということで欠席をされ、三春さん(6期)・大島先生(14期)がガイドを務めて下さった。6期生から25期生までの栄光OBに混じり紅一点女性として参加されたのが、期せずして小生の同期生(それも同じサッカー部員)のご母

堂であったのは嬉しい奇遇だった。

徒歩で最初の目的地である天神山(北野神社)にまず向かった。住宅街の中に聳え立つ天神山の麓から一気に205段の階段を登るのだが、やがて街中とは思えぬ深山の雰囲気となったところに、北野神社が鎮座していた。この山一帯は明治の頃、近隣の住民が資金を出し合って購入し、村の共有財産として大切に保存してきたとのことで、その由緒が境内の石碑に漢文で刻まれている。境内にある拝殿や、宝篋印塔、祠などを見学した後、拝殿の裏手で本格的な「藪こぎ」をして森の中に点在している石碑群を見た。昔の絵図のコピーなども使われて行われた「野外講義」で、かつて天神山の麓には温泉場と花街があり、そこで遊興した人々が禊をするためにこの山にしつらえた四国八十八箇所を模した石碑を巡礼したということを教えて頂いた。

次に向かったのは、州崎古戦場跡。1333年の新田義貞の鎌倉攻めの際に幕府軍が大敗を喫した激戦の地だ。湘南モノレールの下を走る道路沿いに、ひっそりと由緒を物語る石碑が立っている。空き地の一角にこんもりと樹木が茂った小高い丘があるが、そこに「陣出の泣塔(じんでのなきとう)」という宝篋印塔が残されている。州崎の合戦で戦死した北条勢の霊を弔うために建てられたと伝わる塔だ。ここは、夜泣き声がするとか、これを撤去しようとした人間が次々と不審な死を遂げたという伝承が残っており、今でも知る人ぞ知る心霊スポットだそうだ。

ちょうど正午近くになったので、昼食をとることにする。ただ、泣塔のそばで弁当を広げるのはさすがにためらわれたので、少し離れたグランドの隅に移動しそこで昼食。秋のうららかな陽射しの下で、歳の離れた先輩後輩の貴重な交流のひと時となった。

昼食後に立ち寄ったのが霊照山大慶寺。1270年前後に建てられた寺で、かつては関東五山十刹のひとつに列せられた格式の高い寺だったそう

だ。石塔を囲むさざれ石や、可憐な花を咲かせる酔芙蓉の古木に、盛時の名残をかすかに感じる事ができた。深沢小学校の横を通り、近くにある御霊神社と伝梶原景時の墓に足をのぼす。御霊神社は、鎌倉権五郎景政を祭るために梶原景時が建てたと伝えられる神社だ。この一帯がかつて梶原氏の領地であった気配が、今でも色濃く残っている。ここで大島先生から、梶原一族についての講義を受ける。

最後の訪問地は笛田山佛行寺。山門のところで6期の方が1名合流され、総勢15名となる。この寺は梶原景時の子の源太景季の菩提寺で、景季の死を知り悲しんでこの場所で自害したその妻信夫(しのぶ)の霊を慰めるために村人が建てたとされているそうだ。裏山を登り詰めると、頂上に「源太塚」という塚がある。ここには、駿河の地で最期を遂げた景季の形見として送られてきたその片腕(一説には着物の袖とも)が埋められていると伝えられている。この源太塚の丘からは、梶原の郷や笛田公園、鎌倉山など辺りが一望でき、秋の爽やかな風に汗ばんだ体を気持ちよく吹かれながら、遠く鎌倉時代のつわものどもの夢の跡に思いを馳せることが出来た。今日の充実した歴史文学散歩の最後を締めくくるにふさわしい場所であった。3時頃に解散となり、それぞれのルートで帰路についた。



源太塚

未筆ながら、大変きめ細かい準備をして頂いた今回の「案内役」の三春様と大島先生に心より感

謝申し上げたい。今回私は初参加であったが、この「歴史文学散歩」が大変充実した楽しい会であることを知り、常連の「ファン」が多数いらっしやる理由が良く分かった。(なおこの原稿執筆後、金子先生が亡くなられたという知らせを受けた。先生がお元気なうちにこの会でご一緒できなかったことを大変残念に思うとともに、会を長年続けて来られた金子先生のご遺徳を偲び、心からご冥福をお祈りしたい。)

栄光学園同窓会歴史文学散歩

2014年11月18日開催

「人形町、鉄造菩薩頭の大観音寺、水天宮・・・」

古郡 清(6期)

11月18日10時、都心のJR新橋駅地下鉄改札前集合、人形町駅へ移動。参加者はいつもの常連さんの顔ぶれを含め14名。

この「歴史文学散歩」の生みの親であり企画・名ご案内役を務めてくださった金子省治先生が前月10月14日ご帰天され、先生のご冥福を祈り全

員黙祷。今回は先生を欠いたがベテランの三春さん(6期)が案内役を務めてくれた。前回の鎌倉の天神山や前々回の葉山木古庭街道の緑の中を歩くのとはちがった趣きだ。

10時半すぎ、梶の森(すぎのもり)神社に到着。江戸時代には、江戸城下の三森(烏森・柳森・梶森)の一つに数えられ、梶森稻荷と呼ばれて江戸庶民の信仰を集めた。

境内には富興行をしのんで富塚の碑が鳥居の脇に立っている。

11時すぎ、谷崎潤一郎(「たで食う虫」「春琴抄」「細雪」など数々の名作を発表。耽美な世界に新境地を開いた。)生誕地を訪れた。現在夫人松子の揮毫による碑が建てられている。

今回の歴史散歩のメインテーマの大観音寺、毎月2日だけ開扉される鉄造観音頭。もともとは鎌倉十井の一つより出現したもの。東京都中央区民新聞2004年4月12日号に、次のように述べている。「大観音寺は名のごとく大きな観音像を本尊としている。しかも頭部だけで、高さは1メートル70センチと人の背丈と同じで、顔の幅は50センチ。菩薩型の鑄鉄製で、もと鎌倉新清水寺の本尊であったという。その頭部のみが井中で発見され小堂に祀られていたが、明治維新の神仏分離令で処分されようと

していたのを石田可村と山本卯助が海をわたって、明治13年、四層楼を建て安置したのが始まり。昭和47年に都の重要文化財に指定されている。」

・伝説！鉄観音像

新清水寺が焼け落ちたとき、突如強い光が発せられ、巽の方角に飛び去っていった。翌日、村人が火災の跡片付けをすると焼けた観音様の胴体はあ



ったが首がみつからなかった。人々はあの光が観音様だったと噂した。



(鉄観音)

数年が経ち、雪の下の井戸が、目を洗えば治り、常用すれば風邪をひかず、胃腸病や傷も治ると評判になった。

そのうち、観音様のお首が井戸の中にあるに違いないという話になり、井戸替えのときに井の底を掘ると観音様のお首が現れた。

お首は観音堂に安置され、井戸は「鉄ノ井」と呼ばれるようになり、参詣者が絶えなかったという。

甘酒屋丁交差点にて12時45分再集合の指示で昼食解散。玉井の超繁盛店“玉ひで”に入ろうと思ったが長蛇の列で、集合時間に間に合わない恐れありであきらめた。

食後人形町名物”人形焼き”をおみやげに。再集合後、水天宮に向かうが現在建替工事中。

ここのご祭神は天御中主大神(あめのみなかぬしのおおかみ=そもそも遠い遠い昔のこと、誰もその形を知らない宇宙のはじまり。天と地も混沌としていた時に、高天原と呼ばれる天のもっとも高い所に現れた神様がこの大神で、日本の神々の祖先神であり、安産祈願、子授けなど広大無辺のご神徳をあらわされる。)とともに、安徳天皇、建礼門院、二位の尼である。建礼門院に仕えていた官女伊勢が安徳天皇をはじめ平家一門の霊を祀

る日々を送っていた。

伊勢は後に剃髪して加持祈祷などを行っていたが、尊崇する人々が多くなり、尼御前と称えられて慕われ社名を尼御前神社とよばれるに至った。

これが今につづく水天宮の起源と伝えられている。

水天宮からかつて人形細工の家が多かったことにちなむ人形町の商店街、横丁の入口に盛況の甘酒屋があったことにその名が由来する甘酒屋横丁、下町情緒豊かな町を歩き、明治座前を過ぎ、浜町公園に至る。

最終見学地は柳橋、薬研堀不動尊。柳橋は神田川隅田川にそそぐ地点に架けられている。かつては料亭、船宿が川端に灯をうかべ、舟遊びを楽しむ人々にぎわった。その面影は、今も橋際の船宿、佃煮屋に色濃く残っている。



(柳橋)

現在の橋は昭和4年の架け替え。

14時10分解散。

浜町公園では今後の「歴史・文学散歩」をどうしていくかの小ミーティングから金子省治先生を偲びつつ、もう一度なぞるのはどうか、などの意見が出された。

三春さん(6期)、大島さん(14期)などにお世話になることがほとんどかと思いますが、是非継続して頂ければとお願いいたします。

栄光学園同窓会歴史文学散歩
2015年3月4日開催
「河津桜が満開の小松ヶ池を楽しむ」

鈴木顯一(6期)

2015年3月4日 お雛様の翌日、気象庁の天気予報は正鵠を射抜きました。

夜来の雨はぴしやりと上り、集合時間10時には青空が広がりました。

三浦海岸駅が、夏場以外にこれだけ混雑するのは間違いなくこの時期以外には考えられません。

この「会」は 昨年帰天された総合案内役の金子省治先生が企画された最後の散歩企画でした。2003年から2014年まで12年間に48回に亘る楽しい有意な散歩を企画されましたが、これを以て終わるに際し、過去46回も参加した常連の一人として深い哀悼の念を表すものです。

奥さまの最終回への参加も期待されましたが、所用の為諦めざるを得ませんでした。

駅には、すでに何本もの河津桜が咲き誇り、広場には屋台の物売りが屯してさながら歩くことのない花見会場の様子を呈していました。

しかし うち揃い駅から他老人グループと混ざり合いながら目玉となる「小松ヶ池」へと行進。

一軒に及ぶ街道には千本の桜が植えられ、足元には菜の花が満開で絵画の一葉のような景色が連続して広がりました。

近隣やら遠方からの出稼ぎ屋台の並ぶ中 池の辺の桜を巡って漫ろ歩き。

ほぼ満開で、遠景にも、目を近づけての花見も大いに楽しめました。

2月半ばからほぼ一月、3月の中頃まで見頃は続くと言いますが、これが花姿、色と相俟つ

て河津桜の人気の原点でしょう。

1955年に伊豆河津で原木が発見され、その後、河津桜の命名がなされ一気に花見の桜として広がりました。



そもそも、寒緋桜と大島桜の自然交配による新種ですが、寒緋桜は沖縄での花見の中心となる花を下向きに咲かせる緋色の種類で大島桜は色の楚とした種類で、特に桜餅の葉として有名です。伊豆の地形のせいで、偶々自然交配が生じたのでしょうか、古今集以来「櫻」を愛でる大和民族としては、江戸後期の「染井吉野」種に加えて花見のヴァリエティを賑わせた役者でしょう。

「小松ヶ池」(おまつがいけ)は百姓娘「お松」の田植に絡む地方伝承話に因む池ですが、江戸時代から湿地に設えた灌漑用水池であったと思われます。



前日の雨で足元は悪く、いわんや腰を下ろして花を愛でて弁当を広げることも叶わず、高台に戻り場所を確保、昼食時間帯を無視しての早目の「昼」としました。

中には散り出す花もあり、ひらひらと花卉の舞う中での弁当は実に美味しく感じたものでした。

桃に菜の花の伝ででしょうか、河津桜の咲く時期と菜の花のさく時期が偶然にも重なったのでしょうか、どこでもこの組み合わせで売り込んでいますが、見ている側もやさしいピンクと黄色の取り合せに手もなく感激させられます。

昼からはゆくりと駅方面に戻り、そこから「海防陣屋跡」(1847年建立の陣屋で1853年のペリー黒船来日に先駆けて異国船に備えた〜) 浄土宗の「三樹院」、「法蔵院」、諏訪神系の「諏訪大社」と、三浦半島の歴史の一端の匂いを嗅ぐことができました。

三浦氏に絡む半島の攻防の表に立つ街道筋らしく寺、神社が細い田舎道に残りのんびりとした風情があります。

高々一里半足らずの散策ながら、四月中旬並みの天気恵まれ、家々の隙間から見える三浦海岸の青い海がひねもすのたりのたりと眠気を誘っていました。

金子先生、長らくありがとうございました。

さて、2015年度は新たに三春(6期)、大島(14期元社会科教諭)のお二人の企画で、また同窓会前山事務局長の協力を得て、従来同様の散歩を続けることになりました(別途 記事掲載あり)。是非にご参加の上、ちょっとした散策と歴史の香をお楽しみください。

《余談ながら、6期は帰路横須賀中央にて途中下車、新規参入1名を加え、なんと朝10時からの開店という居酒屋で横須賀の文化を学びました。

驚いたことに2期生先輩に偶然出くわすというハプニングも、横須賀とは異な文化のあるよか町かと〜》

2015年度 歴史文学散歩について

大島弘尚(14期)

1年前のアラムナイ81号(2014年4月)に金子省治先生は次のように書かれました。

「2012年度に満10年45回をもって、歴史文学散歩は終わらせるつもりでしたが、ご常連の要望もあり、私ももうすこし歩けそうなので、2013年度も続編を実施しました。(中略)このところ急速に頭と目がかすみ、足もよろよろとしてきましたので2014年度の続々編をどうしようかとだいぶ思案しましたが、おしゃべりするのはまだ大丈夫そうなので、(中略)歴史漫談などをまじえて、思い切って実施を計画しました。万一にも急に旅立つことになっても三春さんや大島さんが面倒をみてくださる筈ですから。」

金子先生は12年間にわたり歴史文学散歩を行って下さいました。2014年度は先生からの企画をもとに、前同窓会事務局長三春勝正氏が資料を用意してくださり、無事実施する事ができました。残念なことに、先生は2014年10月14日に天に召されました。

金子省治先生のお人柄は、授業を受けた卒業生はその熱意、独特な語り口・文字とともによくご存じだと思います。在職中から、教職員の中心となり色々な企画もなさり鎌倉散歩、施設見学会を毎学期のように実施して下さいました。また、ガイドブックには無いような鎌倉周辺の紅葉散策もご案内下さいました。

「鎌倉研究会」から始まる「郷土研究部」の指導教員として生徒と共によく歩かれていたのが、基盤となっていたと思います。その成果は毎年栄光祭で発表し、生徒のまとめた分厚い印刷物は鎌倉中央図書館の郷土資料室に製本されています。

退職後は、教会・地域の人々の歴史散歩を企画、案内され、「歴史文学散歩」も始められました。また、栄光の高校1年の選択授業の一つとして、数年にわたり「昭和史」を毎週1時間担当され、二・二六事

件から太平洋戦争の体験を語って下さいました。授業後、社会科準備室でその日の内容を話されました。「近年、戦争の時代を描くものが多いが、体験者としては暗く、嫌な時代だった」とおっしゃった事は印象に残っております。

先生の亡くなった後に行った2014年度の第3回東京での散歩解散時に、当日参加の皆様からこの企画の存続を希望するご意見がありました。同窓会常任委員会の承認のもと、2015年度は三春様の企画による下記の散歩を予定いたします。金子先生は、平日でもいろいろと活動なさる卒業生もおられるので、曜日は固定せず、現役の方も参加しやすいように1回は週末に実施されていたことも踏襲します。金子先生は「雨男」を自称しておられましたが、12年間はほぼ天候に恵まれ全回予定通り行えました。2015年度も雨天でも、行程を変更するなどして行います。

毎回のようにご参加くださる卒業生のご家族もおられますのは有難いことです。多くの皆様のご参加をお待ちしております。できましたら、事前に同窓会事務局に参加の予定の連絡をしていただくと幸いです。(同窓会事務局は月・水・金曜日に開いております。)

2015年度 歴史文学散歩予定コース

三春勝正(6期)

① アカテガニ(赤手蟹)の産卵地小網代の森と新井城址を訪ねる

実施日:5月28日(木曜日)

集合:京急三崎口駅改札口 10時

解散:油壺入口バス停 15時ごろ

京急三崎口駅…小網代の森…小網代湾…
白鬚神社…海蔵寺…永昌寺…内の引橋…
新井城址…千駄やぐら跡…三浦義意(荒次郎)
の墓…三浦義同(道寸)の墓…油壺バス停→
三崎口駅

距離:7~8km 森の中は木道、他は舗装道路
昼食=弁当持参

小網代は森と干潟、そして美しい海に恵まれています。一時期は開発の手が入りそうな時期もありましたが、自然を守ろうという人々の努力で、アカテガニをはじめ貴重な自然が豊かに残っております。午後は三浦道寸が最後に籠城した新井城址を見て回ります。油壺と小網代湾に囲まれたこの半島から見る景色は思わず息を飲むほどの絶景です。

② 目黒不動とその周辺を歩く

実施日:9月29日(火曜日)

集合:JR目黒駅 西口改札 10時

解散:JR目黒駅 15時ごろ

JR目黒駅…(行人坂)…大円寺…太鼓橋
…*羅漢寺…目黒不動…不動公園…
青木昆陽墓…蟠竜寺…大鳥神社…
目黒川遊歩道…目黒駅

距離:市街地5~6km

昼食=弁当・飲み物持参 *拝観料200円

江戸時代から「目黒のお不動さん」として庶民に親しまれてきた目黒不動とその周辺の行人坂の大円寺や羅漢寺などの寺々をみて歩きます。帰りは目黒川遊歩道を通して目黒駅に戻ります。

③ 久良岐公園から三殿台遺跡を歩く

実施日:11月21日(土曜日)

集合:京浜急行 上大岡駅 東側出口 10時

解散:ブルーライン蒔田駅 15:30頃

上大岡駅…眞光寺…久良岐公園…
久良岐能舞台本庭園…岡村公園…
岡村天満宮…三殿台遺跡(三殿台考古館)
…勝国寺→横浜市営地下鉄(ブルーライン)
蒔田駅(解散)

距離:市街地7~8km

昼食=弁当・飲み物持参

三殿台遺跡は横浜市磯子区岡村にある縄文・弥生・古墳時代のムラの跡です。遺跡は標高55メートルほどの小高い丘の、約10000平方メートルの広さがある平坦な場所にあります。1966(昭和41)年に国の指定史跡となり、翌1967(昭和42)年、三殿台考古館が開館して、遺跡とともに公開されています。

久良岐公園(くらきこうえん)は、横浜市港南区と磯子区にまたがる、横浜市の都市公園(総合公園)。面積は、約23万m²と広大です。汐見台団地の造成にあわせて整備され、1973年(昭和48年)に開園しました。

④ 大庭御厨と大庭城址を訪ねる

実施日:2016年3月30日(水曜日)

集合:JR藤沢駅改札口 10時

解散:JR藤沢駅 16:00頃

藤沢駅ー<バス>→引地橋バス停下車…
宗賢院…臺谷戸稲荷の森…大庭旧神社跡
…舟地蔵…大庭城址公園…引地川親水公園
…大庭神社…成就院…湿性植物園
→藤沢駅

距離:市街地(一部山道あり)7~8km

昼食=弁当・飲み物持参

大庭御厨(みくりや)は1104年~1131年にかけて、鎌倉権五郎景正が現在の藤沢市南半部から茅ヶ崎市一帯にかけて開発した広大な農地で、13の村があったと記録されています。景正は開発したこの地を、1117年に伊勢神宮に寄進したと記録されています。神社に寄進した荘園のことを特別に「御厨」と呼びます。大庭城址は今は公園として整備され、一般に開放されており、この時期であれば桜の花が期待できます。

2014

● 訃報(2014年12月1日以降判明分)

先生

| | | |
|---------|------|-------------|
| J.ピタウ先生 | 英語 | 2014年12月26日 |
| 西田美穂子様 | 事務 | 2015年1月15日 |
| 加藤二郎先生 | ドイツ語 | 2015年3月2日 |

卒業生

| | | |
|-------|-------|-------------|
| 福井幸一氏 | (15期) | 2014年1月27日 |
| 土田徹氏 | (2期) | 2014年6月22日 |
| 山崎博司氏 | (24期) | 2014年9月18日 |
| 及川洋一氏 | (10期) | 2014年11月28日 |
| 小松一郎氏 | (6期) | 2014年12月9日 |
| 岡下弘氏 | (3期) | 2014年12月12日 |
| 高宮徹氏 | (17期) | 2014年12月20日 |
| 下田一成氏 | (2期) | 2015年1月3日 |
| 白岩義賢氏 | (1期) | 2015年1月30日 |
| 藤原次彦氏 | (32期) | 2015年2月22日 |
| 石井一朗氏 | (2期) | 2015年3月26日 |
| 西村厚氏 | (5期) | 2015年3月11日 |

謹んでご冥福をお祈りいたします。

● 次号(第84号):2015年10月発行予定。

● 同窓会ホームページ:

<http://www.eikoalumni.org>

会報79号以降の記事は同窓会HPでもご覧いただけます。

● 投稿歓迎:

同窓会HPや会報への投稿を歓迎します。同期会や支部イベントの報告、個人の体験談などの投稿をお待ちしております。同窓会事務局までお送りください。

● 編集後記:

今号より編集責任を引き継ぎました。まだまだ不慣れですがよろしくお願ひします。

(アラムナイ編集長 高橋英治(28期))